

千葉大学工学部

履修課程

令和6年度入学生用

(2024)

大学からの連絡事項は主に千葉大学学生ポータルでお知らせします。

千葉大学学生ポータルアドレス
<https://portal.gs.chiba-u.jp/>

目 次

工学部の学位授与方針	1
1. 「千葉大学工学部履修課程」について	3
2. 2年次のコース本配属について	3
3. 進級ゲートについて	3
4. 留学について	3
5. 卒業に必要な単位数に含まれるメディア授業科目の単位数上限について	4
6. 工学部開講科目シラバスについて	4
7. 普遍教育科目について	4
8. 専門教育科目について	4
9. 学部開放科目について	5
10. 教育職員・学芸員・司書免許取得に関する科目について	5
11. 千葉工業大学との単位互換について	6
12. 外国人留学生のための科目について	6
13. 履修登録について	6
14. Google アカウントについて	7
15. 補講が同時帯に重複した場合の対応について	7
16. 試験について	7
17. 成績について	8
18. 全学副専攻プログラムの指定科目について	9

19. 大学院授業科目の履修について	9
20. 千葉大学コース・ナンバリング・システムについて	10
21. 授業の取扱い等について	12
22. 事務手続等の案内について	13
23. コース別履修課程	
① 建築学コース	15
② 都市工学コース	21
③ デザインコース	27
④ 機械工学コース	35
⑤ 医工学コース	43
⑥ 電気電子工学コース	51
⑦ 物質科学コース	59
⑧ 共生応用化学コース	67
24. 教育職員免許状の取得について	77
25. 工学部建物・講義室配置図	82

千葉大学工学部 学位授与の方針

千葉大学工学部は、「つねに、より高きものをめざして」の本学の理念のもと、以下を修得した学生に対して、学位を授与する。

■ 「自由・自立の精神」

工学技術者として自己の目標を設定し、その実現において新しい知識や能力の継続的な獲得に努め、高い倫理観をもって常に自己の評価検証を意識する姿勢を身につけている。

■ 「地球規模的な視点からの社会とのかかわりあい」

工学の社会的、文化的位置づけを理解し、技術の開発において、地球規模的な視点や地域の視点から持続可能でインクルーシブな社会の実現のために積極的に関与できる。

自己の国際経験を生かし、広い視野から社会に貢献することができる。

■ 「普遍的な教養」

多様な文化・価値観の存在や人類や社会が直面する課題と工学との関わりについて、異分野融合的な知を備え、主体的な認識と判断力をもって取り組み、それらを技術の開発・発展に活かす姿勢を身につけている。

■ 「専門的な知識・技術・技能」

工学に関連して解決すべき問題を発見し、その解決に必要な情報や知識をもとに多面的な視点から論理的に分析し、解決することができる。

■ 「高い問題解決能力」

情報通信技術等を利用し、外国人を含む他者と協調・協働し、さらに知的財産権や倫理に配慮しつつ獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、問題解決に取り組み、解決の方向性を提案することができる。

千葉大学工学部 教育課程編成・実施の方針

■ 「自由・自立の精神」を堅持するために

工学技術者として自己の目標を設定し、常に自己を評価検証するための教育の機会を提供する。

工学に関する技術の開発において、自己の良心に則り、かつ社会の規範やルールを尊重して高い倫理観をもって行動する姿勢を涵養する。

継続的な自己学修の必要性を理解し、新しい知識、能力の獲得に意欲をもつための教育の機会を提供する。

■ 「地球規模的な視点からの社会とのかかわりあい」を持つために

工学の社会的、文化的位置づけに関する教育科目を提供する。

工学に関する技術の開発において、地球規模的な視点や地域の視点から持続的な社会の発展を目指して、課題を解決する能力を涵養するために、多様な留学の機会を提供する。

学内外で継続的な学修を促進するために、情報通信技術を活用した学修基盤を提供する。

■ 「普遍的な教養」を涵養するために

教養科目、外国語科目等を通じて国内外の多様な文化・価値観を深く理解し、文理横断的・異分野融合的な知を備え、それらを工学に関する技術の開発・発展に対して自ら活かす姿勢を涵養する。普遍教育との横断的なつながりを持った専門科目の学修機会を提供する。

地球的視点から、社会、自然、環境について理解し、人類や社会が直面する課題と工学との関わりについて認識するための教育の機会を提供する。

■ 「専門的な知識・技術・技能」を修得するために

工学上の問題解決のための知識を段階的・体系的に修得できる教育課程を編成し、提供する。

自然や社会的事象、科学的事象、思考結果などを図や数式などで表現し、論理的思考の実践や思考結果を他者とやり取りする際の手段として役立てるための教育科目を提供する。

工学に関して、情報や知識をもとに実証的な姿勢で、多面的な視点から論理的に分析し、その結果を表現するための教育科目を提供する。

工学に関して解決すべき問題を発見し、解決に必要な情報を収集、分析し、解決するための学修の機会を提供する。

■ 「高い問題解決能力」を育成するために

工学で必要となる内容を含め、自分の考えを伝え、相手の考えを理解するためのコミュニケーション、プレゼンテーション教育科目を提供する。また、英語による基本的なコミュニケーションを行うための専門教育科目を提供する。

情報通信技術を活用して多様な情報を収集、分析し、その結果を知的財産権や倫理に配慮しつつ工業技術の開発・発展に利用するための方法を修得するとともに、情報を適切に発信するための学修の機会を提供する。

工学に関して獲得した知識・技能等を総合的に活用し、社会的要求を踏まえて他者と協調・協働して工学に関する技術開発を行い、主体的・能動的な問題解決を可能とするための学修の機会を提供する。

■ 「学修成果の厳格な評価」のために

学修成果については、事前にシラバス等で提示する各授業目標への到達度によって、厳格かつ公正な評価を行う。また、成績評価を透明かつ公平に行うため GPA 制度を採用するとともに、事前・事後学修の明示や履修登録単位数の上限設定等により、単位の実質化をはかる。

講義科目では、試験、レポート、リアクションペーパー等でその達成度を評価する。

実験・実習・演習科目では、試験、レポート、口頭発表、実技等でその達成度を評価する。

1. 「千葉大学工学部履修課程」について

本冊子「千葉大学工学部履修課程」に定める卒業要件等は、2024年度（令和6年度）入学生並びに2026年度（令和8年度）に3年次に編入学する学生に適用されますので、本冊子を卒業時まで最大限に活用してください。

履修方法、卒業要件等について不明な点がありましたら、所属コース等の教員または工学系学部学務室に問い合わせるなどして間違いのないようにしてください。

本冊子の内容は教育内容の充実を図るため変更する場合がありますので、所属コースが毎年度当初に実施するガイダンスには持参のうえ必ず出席してください。

2. 2年次のコース本配属について

1年次に配属されているコースは「仮配属」であり、コース本配属は2年次に行われます。1年次に仮配属をしているコースへの本配属を希望する場合は、そのまま認められます。仮配属コース以外のコースへの本配属を希望する場合にはいくつかの条件があります。詳細は工学基礎セミナーの授業や通知等でお知らせしますが、1年次の1, 2タームに開講される「工学基礎セミナー」及び「工学入門A」の単位を修得済みであることが必要となりますので、希望する場合には忘れずに履修をしてください。

3. 進級ゲートについて

工学部では、2年次から3年次へ進級するにあたって、進級ゲート制を導入しています。進級ゲートとは、2年次末までに進級条件を満たさない場合、3年次に進級できない制度です。これは、履修目標を設定し、計画的に勉強を進めることにより、着実に単位を修得するように学生に促すことを目的としています。進級できない場合は、標準修業年数での卒業はできなくなります。

工学部共通の進級条件として、**工学基礎セミナー及び工学入門の必修科目は、2年次末までに修得すること**が必要となります。

その他、進級に必要な条件等は各コースにより異なります。詳しくは、本冊子の所属コースのページで確認してください。

なお進級ゲートとは別に、4年次の必修である卒業研究等についても各コースで履修条件がありますので、本冊子の所属コースのページで確認してください。

4. 留学について

① 留学必修化

本学部を卒業するためには、在学中に1回以上留学し、当該留学に係る単位を修得（2単位以上）することが必要です。単位を修得する科目は、本学部で開講する専門教育科目に限らず、普遍教育科目や他学部で開講する科目も含まれます。

なお、留学プログラムに係る申請方法は別途案内を行います。

② 海外渡航届について

留学を含め海外渡航を予定している場合は、目的・期間を問わず、「海外渡航届」の提出が必要です。必ず渡航前に所定フォームにより工学系学部学務室に届け出てください。詳細は、学生ポータルに掲示板等でお知らせします。

③ 外国人留学生および3年次編入学生

外国人留学生および3年次編入学生においては、希望しない場合は留学を免除します。

- ④ 留学代替措置に関する手続き
やむを得ない特別な事情で留学をすることができない場合は、所定の手続及び代替措置等について指示があるので、工学系学部学務室窓口まで申し出てください。

- ⑤ 海外留学に関する単位認定について
留学による単位認定を希望される場合は、渡航前に工学系学部学務室窓口まで申し出てください。

5. 卒業に必要な単位数に含まれるメディア授業科目の単位数上限について

千葉大学では、授業の実施方法として、対面授業に加えメディア授業を取り入れており、全ての授業回数のうち半数を超える回数をメディア授業で実施する授業については「メディア授業科目」と呼んでいます。「メディア授業科目」については、卒業に必要な単位数に含めることのできる単位数の上限が66単位※となりますので、履修を計画する際は、シラバス等で授業の実施方法を確認のうえ、卒業までに単位数の上限を超えないように十分留意してください。

※単位互換制度や入学前の既修得単位認定制度により、他大学や高専等で修得した授業科目の単位を本学で修得したものと見なす場合、当該科目が「メディア授業科目」として実施されていれば、認定後の単位も66単位の上限に含まれます。

6. 工学部開講科目シラバスについて

工学部では、冊子の状態でのシラバスを配付していません。工学部が開講する科目の授業内容は、千葉大学学生ポータル (<https://portal.gs.chiba-u.jp/>) にアクセスし、「講義情報 検索・閲覧 シラバス検索」を参照してください。

7. 普遍教育科目について

- ① 普遍教育科目は、国際発展科目群、地域発展科目群、学術発展科目群に区分され、それぞれ以下の表のとおり構成されています。
- ② 普遍教育科目の履修については、普遍教育履修案内「Guidance」に示してあります。

国際発展科目群	英語科目
	初修外国語科目
	国際科目
地域発展科目群	スポーツ・健康科目
	地域科目
学術発展科目群	教養コア科目
	教養展開科目
	数理・データサイエンス科目

- ③ 全学で実施する下記外部検定試験は、必ず受験してください。
- 1年次4月 TOEFL-ITP (詳細は普遍教育履修案内「Guidance」参照)
- 4年次4月 TOEIC-IP (詳細は3年生後期に学生ポータル掲示板等で通知)

8. 専門教育科目について

- ① 専門教育科目は、専門基礎科目と専門科目からなり、それぞれ必修科目、選択必修科目及び選択科目に区分されます。このうち専門基礎科目は、共通専門基礎科目と工学部が独自に開

講ずる学部専門基礎科目に区分されています。共通専門基礎科目とその履修方法等については「Guidance」に示してあります。

- ② 工学部の他コースで開講している授業科目については、所属コースが認めた場合に限り卒業要件として認定されますが、所属コースにより取り扱いが異なりますので注意してください。
- ③ 工学部共通科目で開講している授業科目については、所属コースが認めた場合に限り卒業要件として認定されますが、所属コースにより取り扱いが異なりますので注意してください。
- ④ 工学基礎セミナー（1，2ターム）の履修について
開講曜日・時限・場所等は、その年度のガイダンスで説明します。
- ⑤ 工学入門について
 - 工学入門A（2ターム）は、入学時の所属コースのものを履修する。
 - 工学入門B（4ターム）は、入学時に配属されている系その他コースの授業を履修する。
 - 工学入門C（4ターム）は、工学入門A及び工学入門Bで選択したコース以外の授業を履修する。

開講曜日・時限・場所等はシラバスで確認してください。

系・コースの一覧

	建築・ デザイン系	機械・電気 応用物理系	応用化学・ 環境系
建築学コース	○		
都市工学コース	○	○	
デザインコース	○		
機械工学コース		○	
医工学コース		○	
電気電子工学コース		○	
物質科学コース		○	○
共生応用化学コース			○

9. 学部開放科目について

本学には、各学部で開講している授業科目を全学の学生に提供する学部開放科目があります。この科目を工学部学生が修得した場合、工学部で開講している科目を除き、原則として普遍教育科目の教養展開科目の扱いとなります。

学部開放科目の詳細については、「Guidance」に示してあります。

10. 教育職員・学芸員・司書免許取得に関する科目について

本学では、教育職員・学芸員・司書免許の資格を取得するための科目を開講しています。

工学部においても教育職員免許法等に規定する所要の科目を履修し、単位を修得した者は教育職員免許状の取得が可能です（本冊子項目 24 を参照してください）。

なお、学部開放科目として開講している科目を含め、教育職員免許状取得のために必要な科目については、「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「各教科の指導法」にあたる科目と 79 ページ掲載の「教育の基礎的理解に関する科目等」は、卒業要件単位として認められません。

また、学芸員・司書免許取得に必要な授業科目のうち、普遍教育科目及び学部開放科目として開講している科目以外について修得した単位についても同様の扱いとなりますので注意してください。

学芸員・司書免許取得に関する科目については、「Guidance」に示してあります。

1 1. 千葉工業大学との単位互換について

工学部では、教育内容の拡大及び学習効果を高める観点から、千葉工業大学工学部・創造工学部・先進工学部と単位互換を行っています。双方の学生が定められた授業科目を相手大学の学部で履修し、修得した単位は在学学部で修得した単位とみなします。なお、履修可能な授業科目については所属コースで指定しています。詳細は、掲示等でお知らせします。

1 2. 外国人留学生のための科目について

外国人留学生のための授業科目として開講している普遍教育科目に、日本語科目があります。日本語科目は日本人学生が受講することはできません。詳細については、「Guidance」に示してあります。

1 3. 履修登録について

① 履修登録

普遍教育科目、専門教育科目の他、他学部で開講する授業科目など、**その年度に履修しようとする科目（卒業研究を含む）のすべてについて履修登録が必要です。**履修登録手続きは年度当初の所定の期間に各自で行ってください。後期登録の科目について変更を希望する場合は、履修登録・修正期間が設けてあります。**所定の期間内に履修登録が行われない場合は、原則として単位の修得はできませんので注意してください。**

なお、**1年間に登録できる単位数の上限は原則として50単位です。ただし、以下の科目は、この上限から除きます。**

- ・工学基礎セミナー
- ・工学入門A, B, C
- ・総合工学プロジェクト
- ・集中講義科目
- ・成績評語が「認定」である科目（「検定外国語」「海外留学認定科目」など）
- ・卒業要件外科目（教育学部で開講される教員免許取得用科目など）

なお、所属コースによって、上記以外の除外科目がある場合や、登録単位の上限が異なる場合がありますので、本冊子やガイダンス、所属コース教育委員に確認してください。

※履修登録・変更・取消を行った際にはWeb履修申請の「履修チェック結果（時間割）」画面を、必ずプリントアウトして保存してください。本人の過失・失念により履修登録を削除

し忘れた場合について「不可」は取消ができません。上記のプリントアウトは確実に削除（登録）したという証拠になります。

※他学部の授業科目を履修しようとする場合、一部について学生ポータルによる履修登録ができない場合があります。その場合は工学系学部学務室窓口まで申し出てください。

※2月中旬までに確定する成績で、進級判定および卒業判定を行います。2年次生および4年次生が第6タームに開講される科目を履修する場合、適宜授業担当教員へ2月中旬までに成績確定が間に合うか確認してください。

② パソコンの学内設置場所

学内には履修登録の手続きをする学生用として、パソコンが設置してあります。端末機の場合については「Guidance」を参照してください。

なお、千葉大学情報戦略機構が運営している無線 LAN サービスでも履修登録が可能です。無線 LAN サービスの詳細については情報戦略機構のホームページ <https://www.cudtec.chiba-u.jp/>を参照してください。

14. Google アカウントについて

入学当初、学生個人に Google アカウントを配付します。Google アカウントは履修登録、成績の確認等に必要です。使用開始時に、2段階認証の設定および本人確認のための連絡先登録を必ず行ってください。2段階認証を設定しないと、アカウントがロックされ、ログインできなくなります。

15. 補講が同時時間帯に重複した場合の対応について

補講が同時時間帯に重複した場合、補講欠席届（普遍教育窓口または工学系学部学務室窓口で受領）を欠席する授業の担当教員に提出してください。不利益にならないよう配慮がなされます。

16. 試験について

① 受験に際しては、次の事項を遵守してください。

- ・教員（監督者）から指示された座席で受験すること。
- ・学生証を机の上に置くこと。
なお、学生証を紛失した者、当日忘れた者は直ちに申し出ること。
- ・携帯電話の電源を切り、かばんに入れるなど身体から離れたところに置くこと。
なお、携帯電話を時計として使用することは許されない。
- ・氏名及び学生証番号は、ペン、ボールペンなどの消しゴムで消えない筆記用具で記入すること。解答は、鉛筆、シャープペンシルでもよい。
- ・遅刻許容時刻及び退室可能時刻は、教員（監督者）の指示に従うこと。
- ・その他、教員（監督者）の指示に従わない場合は、受験が無効になることがある。

② カンニングなどの不正が行われたとき、または監督者の指示に従わないなどの行為があったときは、学則の定めるところにより原則、懲戒処分（戒告、停学、放学）を受けることになります。

不正行為

- ・ 解答用紙へ故意に虚偽の記入をすること。
- ・ カンニング（試験の科目に関係するメモやコピーなどを机上等に置いたり見たりすること、持込が許可されていない書籍類の内容を見ること、他の受験生の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。
- ・ 他の受験生に答えを教えたりカンニングの手助けをすること。
- ・ 解答用紙を試験室から持ち出すこと。
- ・ 「解答はじめ。」の指示の前に解答を始めること。
- ・ 試験時間中に、許可されたもの以外のものを使用すること。
- ・ 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、電子辞書、ICレコーダー等の電子機器類を使用したり、かばん等にしまわず、身に付けていたり触れたりすること。
- ・ 試験終了の指示に従わず、鉛筆や消しゴムを持っていたり解答を続けること。
- ・ 試験の進行に影響を与えるような行為を行うこと。

- ③ 病気、事故等のため、止むを得ず受験することができなかった場合には、担当教員に相談してください。

17. 成績について

- ① 単位を修得するためには、試験に合格する他、**その授業の5分の4以上の出席時数が原則として必要です。**なお、成績には、論文、レポート、作品、授業への出席状況なども考慮されます。
- ② 成績は、秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）及び不可（59点以下）の評語をもって表します。秀、優、良及び可を合格とし、不可を不合格とします。なお、一部科目については、合格・不合格で表し、後述のGPAには含まれません。また、一度単位を修得した授業科目の成績の取り消し及び再履修は認められません。

③ 成績通知表

成績通知表は、履修登録された授業科目すべてを記載し、各学期末頃に学生ポータル上で公開します。

なお、成績通知表へ記載する評語とその内容は次のとおりです。

- ・ 秀、優、良、可、合格……………合格と認定された科目です。
- ・ 認定……………単位が認定された科目です。
- ・ 不可、不合格……………不合格と認定された科目です。
- ・ 保留……………担当教員が評価を保留している科目です。
- ・ 未報告……………担当教員から報告がされていない科目です。

なお、保証人等への成績通知表送付を希望しない旨、工学系学部学務室に届け出た場合以外は、3月下旬に当該年度末分までの成績通知表を保証人等宛に送付します。

また、成績通知表には、GPA（Grade Point Average）が記載してあります。

※GPAについては、「Guidance」に示してあります。

④ 成績証明書

成績証明書には上述の評語のうち、「秀」、「優」、「良」、「可」並びに「合格」、「認定」の評語の成績のみを記載します。

⑤ 成績の問い合わせ

万一、**工学部専門教育科目の成績**に疑問がある場合には、以下の所定の手続きを経て担当教員へ問い合わせることができます。ただし、評価を得るための基本事項（授業への出席、試験の受験、レポートの提出等）や履修登録間違いでは、問い合わせの対象にはなりませんので、具体的な根拠（事由）がある場合のみ受け付けます。

調査の結果、誤りが発見された場合には、学生に通知するとともに成績の訂正処置が取られます。

受付期間：成績公開日より、前期開講科目については10月10日まで、後期・通年開講科目については4月10日まで。※土日祝の場合は翌平日とする。

卒業年次および2年次の学生においては、卒業および進級の対象者に限り、成績評価に関する問い合わせ期間を別に設けます。

受付場所：工学系学部学務室窓口（工学部管理棟1階）

必要なもの：成績通知表、成績評価に関する異議申立書（窓口にて配付）

なお、普遍教育科目及び共通専門基礎科目の成績の疑義については、普遍教育担当窓口（総合校舎1号館1階）の指示に従ってください。詳細については、「Guidance」に示してあります。

⑥ 工学部成績評価のガイドライン

1. 秀（90点以上）評価と優（89～80点）評価を与える学生の割合は履修登録者数に対して合計60%を上限とする。
2. 不可（59点以下）評価を与える学生の割合は40%以下を目処とする。
3. 次のいずれかに該当する授業科目には、担当者の判断により本ガイドラインを適用しないことができる。
 - （1）履修登録者が20名未満、または履修登録者がコースの現員の50%未満
 - （2）実験・演習の科目
 - （3）各コースで特に認められた科目

18. 全学副専攻プログラムの指定科目について

工学部の専門科目の一部に、全学副専攻プログラム「国際日本学」、「ローカル・イノベーション学」、「数理・データサイエンス教育プログラム（副専攻）」の単位が認定される指定科目があります。詳しくは各種手引き及び「Guidance」で確認してください。

19. 大学院授業科目の履修について

卒業年次に在籍する学生で、引き続き本学大学院への進学を希望し、かつ学業が優秀な者に限り、一部の大学院授業科目の履修が可能です。

本学大学院に進学後、学生からの申請に基づき、大学院科目として単位を認定しますが、詳細は入学予定の学府・研究科で確認してください。なお、学部における卒業に必要な単位数に

は算入されませんが、履修登録の上限単位には含まれます。対象科目は別途、お知らせします。

20. 千葉大学コース・ナンバリング・システムについて

コース・ナンバリングとは、学生の皆さんの授業選択をサポートすることを目的に、個々の授業に、授業の分野・科目区分、難易度を表す記号を付けることで、その授業の位置付けや他の授業との関係を示すものです。

千葉大学では、すべての授業科目に、2つの文字コードと3つの数字からなる5桁の記号（コード）を付けることで、その授業科目が千葉大学の教育プログラム全体の中でどの位置にあるのかを示しています。

コース・ナンバリングの5桁のコードは、次のような意味を持っています。

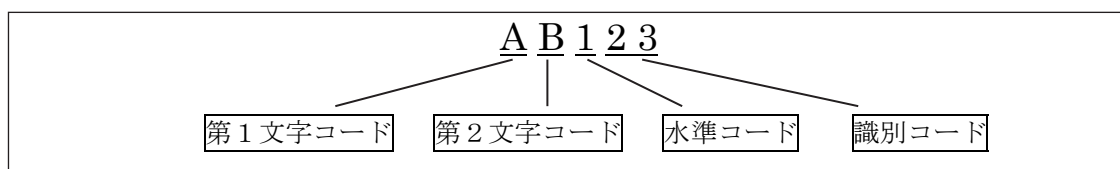
第1文字コードは、その授業の開設に責任を持つ組織名（学部・大学院研究科・学府）もしくは、その授業が全学の共通教育科目であるかどうかを示します。

第2文字コードは、その授業が置かれている教育単位を示すものです。このコードは、カリキュラム上の責任組織や教育組織（コース、課程、大学院の専攻）、あるいは科目群を示します。

水準コードは、科目の難易度の目安を示します。0から6までの7つのレベルに分けられています。

識別コード（2桁）は、科目を識別するものです。数字の大きさが科目の難易度を示すものではありません。

コース・ナンバリング・システムの構造



「千葉大学におけるコース・ナンバリング・システム」での工学部の文字コード

	学科等名	第1文字コード	第2文字コード
共通専門基礎科目	数学・統計学	C	M
	物理学	C	P
	化学	C	C
	生物学	C	B
	地学	C	E
工学部	総合工学科建築学コース	T	A
	総合工学科都市工学コース	T	B
	総合工学科デザインコース	T	C
	総合工学科機械工学コース	T	D
	総合工学科医工学コース	T	F
	総合工学科電気電子工学コース	T	E
	総合工学科物質科学コース	T	K
	総合工学科共生応用化学コース	T	G
共通科目	T	X	

水準コード

水準コード	定義	主な対象
000	卒業要件外の科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学入学前に修得すべき内容を扱う科目 ・ 卒業要件外の授業科目
100	入門的・導入的科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初年次での必修科目を含む，基礎的な普遍教育科目・共通専門基礎科目 ・ 各学部等で，その専門領域を初めて学ぶ学生のための基礎的な専門科目（初学者向け科目）
200	中級レベルの科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発展的内容を扱う普遍教育科目・共通専門基礎科目 ・ 発展・応用レベルの内容を扱う専門科目
300	高度な内容を扱う科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ より高度な内容を扱う普遍教育科目 ・ 実践的・専門的に高度な内容を扱う専門科目
400	学士課程卒業レベルの科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学士課程で学修する最終段階の水準の科目 ・ 卒論ゼミ，卒業演習，卒業論文，卒業研究など
500	大学院博士前期課程（修士課程）・専門職学位課程レベルの科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院博士前期課程（修士課程）・専門職学位課程学生を対象とする大学院共通科目 ・ 実践的・専門的にきわめて高度な内容を扱う大学院前期博士課程（修士課程）での授業科目 ・ 6年制学士課程，専門職学位課程において高度専門職に必要なきわめて高度な実践的・専門的内容を扱う科目
600	大学院博士前期課程（修士課程）・専門職学位課程修了レベルの科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院博士前期課程（修士課程）・専門職学位課程で学修する最終段階の水準の科目 ・ 修士論文など

21. 授業の取扱い等について

- ① 自然災害・事故等及び交通機関のストライキ等に伴う授業の取扱いについては、以下の学部教育委員会申合せ令和3年6月1日「自然災害・事故等及び交通機関のストライキ等に伴う授業の措置について」のとおりです。

自然災害・事故及び交通機関のストライキ等に伴う授業の措置について

自然災害・事故及び交通機関のストライキ等に伴う授業の取扱いについては、下記のとおりとする。

1. 自然災害・事故及び交通機関のストライキ等に伴い、各キャンパスの最寄駅を運行する全線の列車が運行停止となった場合。
 - ①午前6時までに運行しない場合は、第1及び第2時限の授業を臨時休講とする。
 - ②午前10時までに運行しない場合は、第3、第4及び第5時限の授業を臨時休講とする。
 - ③正午までに運行しない場合は、第6及び第7時限の授業を臨時休講とする。
2. 台風等により、気象庁から各キャンパスの所在地域に「特別警報（高潮及び波浪を除く）」、「暴風警報」又は「暴風雪警報」（以下「警報」という。）が発令された場合。
 - ①午前6時までに警報が解除されない場合は、第1及び第2時限の授業を臨時休講とする。
 - ②午前10時までに警報が解除されない場合は、第3、第4及び第5時限の授業を臨時休講とする。
 - ③正午までに警報が解除されない場合は、第6及び第7時限の授業を臨時休講とする。
 - ④授業の開始後、警報が発令された場合は、当日のその後に開始する授業を臨時休講とする。
3. 各キャンパスの最寄駅を運行する全線の列車が運行停止とはなっていないが、台風の接近等により運行停止が見込まれる場合、又はその他の事由により通学及び帰宅が困難と判断される場合。

各部局の状況等を勘案し、教育担当理事がキャンパスごとに決定する。なお、台風等により、気象状況が時間の経過とともに悪化することが十分予測される場合は、前日までに休講の決定を行うことがある。
4. 部局の事情により、上記1～3の取扱いにより難い特別の事情がある場合。

当該部局長の判断により取扱いを決定することができる。なお、この場合は、当該措置後、速やかに教育担当理事にその状況を報告する。
5. 休講等の措置に係る学生及び教員等への周知方法。

千葉大学学生ポータル及びホームページ等を活用し、速やかな周知を図る。
6. 教育実習等の場合の取扱い。

教育実習、臨床実習、介護等体験実習及びインターンシップ等の場合は、各実習先の指示に従う。
7. 自然災害等による甚大な被害により、交通機関の復旧が長期にわたる場合。

その状況に即し、学長が適宜決定する。

※ 1及び3の最寄駅は、「西千葉地区…JR西千葉駅及び京成みどり台駅」、「亥鼻地区…JR千葉駅及び京成千葉駅」、「松戸地区…JR松戸駅及び新京成松戸駅」、「柏の葉地区…つくばエクスプレス 柏の葉キャンパス駅」及び「墨田地区…東武亀戸線小村井駅及び京成（ほか各線）押上駅」とする。

- ② 授業の休講、集中講義の開講通知、奨学金に関する事項及び授業料の納入等学生に関する連絡・通知は、原則として千葉大学学生ポータル及び工学部管理棟1階や各コースの掲示板に掲示するので、必ず掲示板を見るようにしてください。

2.2. 事務手続等の案内について

証明書関係	各種証明書の発行	証明書発行サービス (https://cert.gs.chiba-u.jp/) より申請し、指定した出力先で印刷（または受取）してください。	
身分異動	休学願	<p>疾病その他の事由によって2ヶ月以上学習することができない場合、担任教員及びコース長に相談の上、事由を付して休学を願い出てください。</p> <p>休学願の提出期限は、原則として休学しようとする日から起算して1ヶ月前までとします。(疾病の場合は、医師の診断書を添付すること)</p> <p>なお、休学許可者が履修登録済みの場合、学期間中の履修登録を削除します。また、休学中は卒業年次であっても、卒業見込証明書は発行できません。</p>	
	復学願	休学期間満了の場合、または休学期間中であっても、その事由が消滅した場合には、原則として履修を再開しようとする日から起算して1ヶ月前までに、担任教員及びコース長に相談の上、復学願を提出してください。(疾病の場合は、医師の診断書を添付すること)	
	留学願	主に派遣留学等の中長期の留学については、事前に担当教員及びコース長に相談の上、留学をすることが決まった時点で速やかに留学願を提出してください。	
	退学願	<p>退学しようとする日から起算して1ヶ月前までに、担任教員及びコース長に相談の上、手続きを行ってください。</p> <p>なお、退学する学期の授業料を完納しなければなりません。</p>	
その他	学生証再発行	紛失または破損等した場合は、所定用紙により届け出てください。 届け出先は、下記を参照してください。	
		紛失・破損・汚損	学生支援課課外活動支援係
		在籍期間延長	工学系学部学務室
	現住所等の変更	本人や保証人の住所等が変更になった場合、その都度速やかに所定用紙により届け出るとともに、学生ポータルの学籍情報を修正してください。	
	自転車通学	自転車で通学する学生は、生協住まいアルバイト紹介センターで登録をしてください。	
車両による通学 (自動車等)	車両での通学は、原則として認めません。特殊な事情により車両での通学を希望する学生は、駐車場許可証交付願により願い出てください。審査のうえその事由が車両による通学を認められる場合は、これを許可します。		

公欠届	忌引き（二親等以内）、学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症に罹患・感染した場合、教育実習等、課外活動において全国大会に出場する場合等（詳細については窓口にお問い合わせください）で授業に出席することができない場合は、公欠届を提出することにより、公欠扱いとすることができます。
海外渡航届	留学や旅行で海外に行く場合は、所定フォームにより届け出てください。

23. コース別履修課程

① 建築学コース	15
② 都市工学コース	21
③ デザインコース	27
④ 機械工学コース	35
⑤ 医工学コース	43
⑥ 電気電子工学コース	51
⑦ 物質科学コース	59
⑧ 共生応用化学コース	67

① 建築学コース (Department of Architecture)

○ 建築学コースの理念

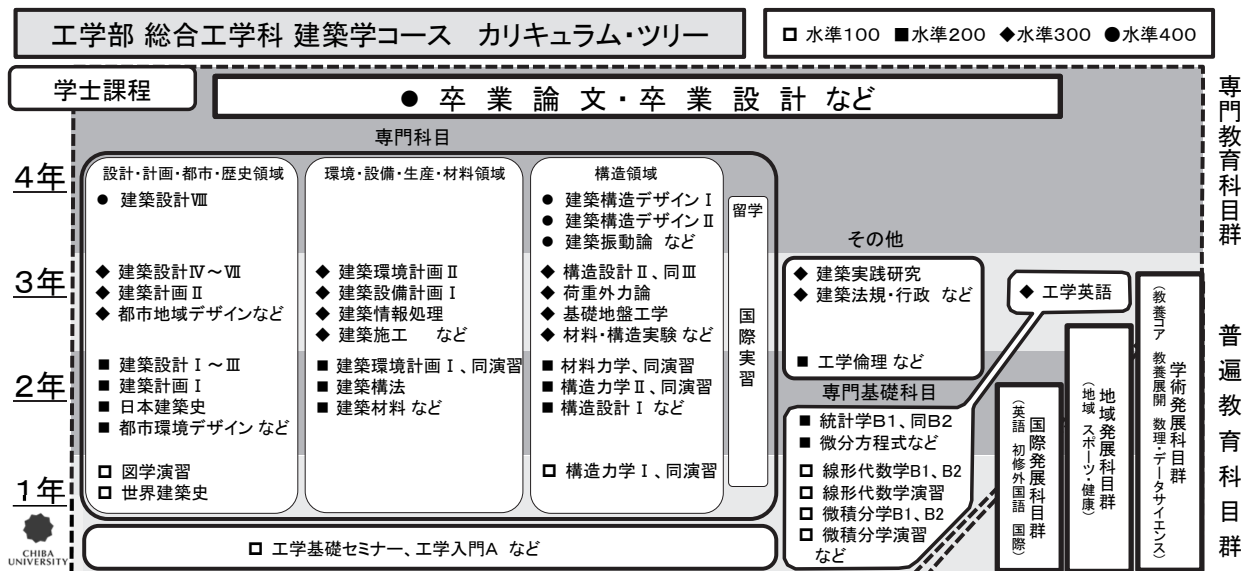
学術・技術・芸術の総合を大きな特色とする建築学コースでは、幅広い知識と深い洞察力を備え、安全・快適で美しい建築物を創造する高い専門能力を有する人材を養成することを目的としている。また、いかなる建築物も公共財としてひとびとに長く愛され、文化の創造と継承という大きな役割を果たすことが求められているため、その実現のためには高い理想と倫理観が必要である。「建築・都市に幅広い関心を持っている人、論理的かつ柔軟な思考を通して、空間的に構想し、実践に結びつける意欲のある人」を求める本コースのアドミッションポリシーは、このような理念をあらわしたものである。

全ての卒業生は将来の日本ならびに海外の建築関連分野において基幹的な役割を果たす人材として通用すべく学習・教育が行われる。さらに卒業後は過半が大学院に進学し、高度専門技術を身につけることが期待されている。

○ 建築学コースの学習教育到達目標

以下に掲げる能力・知識・理解を自ら獲得し、かつ研鑽を継続していく基盤を構築すること

- (1) 美観上および技術上の諸要求に応える建築を設計・計画する能力
- (2) 建築設計・計画という職能とその社会的使命についての理解
- (3) 建築の歴史・理論、および関連する人文・社会・自然科学に関する十分な知識
- (4) 都市空間のなりたちと都市の設計・計画に関する十分な知識
- (5) 人間と建物、建物相互、および周辺環境の空間を理解し、適切な質と尺度を与え、ユーザあるいは発注者の立場から適切なプロセスを踏み、プロジェクトの企画・立案を行う能力
- (6) 建築・都市の安全とそれを支える構造技術についての理解
- (7) 快適で安全な室内環境と都市環境を得るための建物の性能、技術に関する十分な知識
- (8) 環境および経済・社会文化次元を統合した持続可能性の重要性に関する十分な知識
- (9) 建築施工原理の包括的理解に基づく建築構法に関する能力
- (10) 上記の能力・知識・理解を、将来にわたって自主的・継続的に学習し発展させていく意思・経験・能力



科目区分	J A B E E	授 業 科 目	ナン バ リ ン グ	単位数		週当たりの授業時間数 ^{注1,2}																備 考
				必 修	選 択 必 修	1年次				2年次				3年次				4年次				
						T 1	T 2	T 4	T 5	T 7	T 8	T 10	T 11	T 13	T 14	T 16	T 17	T 19	T 20	T 22	T 23	
普通教育科目	*1	英語科目		6	4																6~10単位を修得	
		初修外国語科目			4																0~4単位を修得	
		国際科目		2																	2単位必修	
		スポーツ・健康科目			2																0~2単位を修得	
		地域科目		2																	2単位必修	
		教養コア科目		4																	4単位必修	
		教養展開科目		5	4																5~9単位を修得	
		数理・データサイエンス科目		3															3単位必修			
専門基礎科目	*2	工学基礎セミナー	TX120	2		2	2													このうち26単位を修得		
		工学入門A (自コース)	TX108	1			2															
		工学入門B (他コース1[自系])	TX109	1				2														
		工学入門C (他コース2)	TX110	1	1			2														
		微積分学B 1	CM102	2		2	2															
		微積分学B 2	CM103	2			2	2														
		微積分学演習B 1	CM104	1		1	1															
		微積分学演習B 2	CM105	1				1	1													
		線形代数学B 1	CM107	2		2	2															
		線形代数学B 2	CM108	2				2	2													
		線形代数学演習B 1	CM109	1		1	1															
		線形代数学演習B 2	CM110	1				1	1													
		総合工学プロジェクト ^{注4}	TX310		2												30					
		微分方程式	CM203	2					2	2												
		統計学B 1	CM205	2					2	2												
		統計学B 2	CM206	2						2	2											
		知能システム入門	TX203	2					2	2												
		化学基礎A	TX111	2	2	2																
		化学基礎B	TX112	2			2	2														
		力学基礎1	CP103	2	2	2																
		力学基礎演習1	CP108	1	1	1																
		力学基礎2	CP104	2			2	2														
		力学基礎演習2	CP109	1			1	1														
		電磁気学基礎1	CP106	2			2	2														
		電磁気学基礎演習1	CP111	1			1	1														
		物理学基礎実験I	CP112	1			(2)	(2)														
化学基礎実験	CC106	1			(2)	(2)																
図学演習	TA101	2			(4)	(4)																
工学英語	TX303	2								2	2											
工学倫理	TX201		1						2													
専門科目	*3	建築デザイン基礎	TA211	2					(8)										このうち10単位以上を修得			
		建築設計I	TA212	2					(8)													
		建築設計学	TA203		2				2	2												
		建築設計II	TA213	2						(8)												
		建築設計III	TA214	2						(8)												
		建築計画I	TA222		2					2	2											
		建築計画演習I	TA223		1					(2)	(2)											
	*4	建築環境計画I	TA231	2					2	2									このうち5単位以上を修得			
		建築環境計画演習	TA232	1					(2)	(2)												
		建築環境計画II	TA331		2							2	2									
		建築設備計画I	TA341	2							2	2										

JABEEによる科目区分

*1 基礎教養科目

*2 基礎専門科目

*3 建築包括基礎科目 (建築設計・計画)

*4 建築包括基礎科目 (建築環境・設備)

*5 建築包括基礎科目 (建築構造)

*6 建築包括基礎科目 (建築生産・施工)

*7 建築包括基礎科目 (歴史・都市)

*8 専門領域共通科目

*9 施設デザイン専門領域科目

*10 構造エンジニアリング専門領域科目

科目区分	J A B E E	授 業 科 目	ナ ン バ リ ン グ	単位数		週当たりの授業時間数 ^{注1,2}																備 考	
				必修	選択必修	1年次				2年次				3年次				4年次					
						T1	T2	T4	T5	T7	T8	T10	T11	T13	T14	T16	T17	T19	T20	T22	T23		
専 門 科 目	*5	構造力学 I	TA151	2				2	2													6単位必修	
		構造力学演習 I	TA152	1			(2)	(2)															
		材料力学	TA253	2					2	2													
		材料力学演習	TA254	1					(2)	(2)													
	*6	建築材料	TA271	2							2	2											このうち6単位以上を修得
		建築構法	TA281	2					2	2													
		建築法規・行政	TA391	2											2	2							
		建築施工	TA382	2											2	2							
	*7	世界建築史	TA121	2				2	2														このうち6単位以上を修得
		日本建築史	TA221	2					2	2													
		都市環境デザイン★	TA224	2						2	2												
		造園学	TA301	2											2	2							
	*8	建築実践研究	TA307	2															2	2			このうち14単位以上を修得
		卒業演習 ^{注5}	TA402	2																(60)			
		卒業論文 ^{注6}	TA403	4																		(120)	
		卒業設計 ^{注6}	TA404																				
		材料・構造実験	TA371	2											(4)	(4)							
		建築設計IV	TA311	2											(8)								
		建築設計V	TA312	2												(8)							
		インターンシップ	TA304	1													(30)						
		建築情報処理	TA305	2															2	2			
		建築設計VI	TA313	2													(8)						
		建築設計VII	TA314	2																(8)			
		国際実習	TX320	2														(60)					
	海外留学認定科目 I	TX321	2														30					※留学科目	
	海外留学認定科目 II	TX322	2														30					※留学科目	
	海外留学認定科目 III	TX323	2														30					※留学科目	
	*9	建築の保全と再生★	TA321	2															2	2			このうち8単位以上を修得
		近現代建築論	TA325	2															2	2			
		建築計画 II	TA322	2															2	2			
		建築計画演習 II	TA323	1															(2)	(2)			
		建築環境計画 III	TA332	2																2	2		
		建築設備計画 II	TA342	2																2	2		
		建築史野外研修 ^{注7}	TA306	2																			
		建築設計 VIII	TA411	2																(4)	(4)		
	*10	構造力学 II	TA251	2																			このうち10単位以上を修得
		構造力学演習 II	TA252	1								(2)	(2)										
		構造設計 I	TA261	1								2											
		構造設計 II	TA361	2															2	2			
		構造設計演習 II	TA362	1															(2)	(2)			
		荷重外力論	TA351	1															2				
		構造耐力論	TA365	1																2			
		基礎地盤工学	TB357	2																2	2		
		火災安全工学	TA366	2																2	2		
		構造設計 III	TA363	2																2	2		
		構造設計演習 III	TA364	1																(2)	(2)		
		建築振動論	TA451	2																	2	2	
	建築振動論演習	TA452	1																	(2)	(2)		
	建築構造デザイン I	TA461	2																	(8)			
	建築構造デザイン II	TA462	2																		(8)		

注1：集中講義については、週当たりの授業時間数ではなく、総時間数を記載している。

注2：実験や実習の授業時間数（90分講義を2時間と換算）は（）付かで示す。

注3：★は「ローカル・イノベーション学」指定科目。

注4：「総合工学プロジェクト」は通期集中講義として開講する。

注5：「卒業演習」はT19-T21に開講する。

注6：「卒業論文」と「卒業設計」は、どちらか1科目を履修すること。

注7：「建築史野外研修」はT15に集中開講する。

1. 卒業に必要な単位数

(一般学生用)

普通教育科目													専門教育科目		卒業単位数		
国際発展科目群			地域発展科目群			学術発展科目群							専門基礎科目 ※4	専門科目 (卒論等を含む) ※3・4			
英語科目	初修外国語科目 ※2	国際科目		スポーツ・健康科目	地域科目		教養コア科目			教養展開科目						基礎	展開
		基礎	展開		基礎	展開	論理	生命	文化	環境	基礎	展開					
6~10	0~4	1	1	0~2	1	1	1	1	1	1	1	5~9	2	1	26	78	130 単位
8~12			2~4			12~16							104 単位				
26 単位																	

(外国人留学生用)

普通教育科目													専門教育科目		卒業単位数		
国際発展科目群			地域発展科目群			学術発展科目群							専門基礎科目 ※4	専門科目 (卒論等を含む) ※3・4			
英語科目 ※1	日本語科目	初修外国語科目 ※2		国際科目	スポーツ・健康科目	地域科目		教養コア科目			教養展開科目					基礎	展開
		基礎	展開			基礎	展開	論理	生命	文化	環境	基礎	展開				
6~10	0~4	0~4	1	1	0~2	1	1	1	1	1	1	5~9	2	1	26	78	130 単位
8~12			2~4			12~16							104 単位				
26 単位																	

※1 英語が母国語の人は、英語以外の外国語から履修すること。

※2 初修外国語は、複数の外国語にまたがって履修してよい。

※3 専門科目の単位修得においては、以下に示す授業科目のJABEE区分ごとに、所定の単位数を満足しなければならない。

JABEE 区分	開講科目単位数		必要単位数 (◎+○)
	◎必修	○選択必修	
*3 建築包括基礎科目 (建築設計・計画)	8	5	10 単位以上
*4 建築包括基礎科目 (建築環境・設備)	5	2	5 単位以上
*5 建築包括基礎科目 (建築構造)	6	0	6 単位
*6 建築包括基礎科目 (建築生産・施工)	0	8	6 単位以上
*7 建築包括基礎科目 (歴史・都市)	4	6	6 単位以上
*8 専門領域共通科目	12	17	14 単位以上
*9 施設デザイン専門領域科目	0	15	8 単位以上
*10 構造エンジニアリング専門領域科目	0	23	10 単位以上

※4 専門基礎科目，専門科目においては，必修科目と選択必修科目の区分もふまえ，以下に示す単位数を卒業時までには満足しなければならない。

(専門教育科目の卒業に必要な単位数)

(一般学生用，外国人留学生用)

	必修科目	選択必修科目	合計
専門基礎科目	20	6	26
専門科目	35	43	78

2. 3年次の進級について（進級ゲート）

下記条件を満たしていない場合，2年次から3年次に進級できず，13ターム以降に開講されるすべての科目を履修することができない。

「卒業に必要な単位数」のうち62単位以上

3. 卒業演習・卒業論文・卒業設計の履修条件

「卒業に必要な単位数」のうち104単位以上

4. 履修上の注意

(1) 普遍教育科目履修に関する注意事項	
(ア) 別途案内（掲示等）によりクラス分け指定がある科目は，これに従い履修登録すること。	
(イ) 教養コア科目および専門基礎科目は指定クラスで受講すること。	
(2) 他学部開講の専門基礎科目	履修はできるが「卒業に必要な単位数」には算入されない。
(3) 他コースの卒業要件科目である専門基礎科目	
(4) 他学部開講の専門科目	
(5) 他コース開講の専門科目	
(6) 千葉工業大学の指定科目	履修はできるが「卒業に必要な単位数」には算入されない。 履修可能な科目は，各学期初めのガイダンスまたはメールにて周知する。
(7) 卒業要件科目は推奨されている年次に履修すること。	
(8) 実験，演習の履修にあたっては，これに関連する講義科目の履修を原則とする。	
(9) 数年次もしくは数期にわたって開講される一連の授業科目のなかに，順を追って履修すべきものがあるので，シラバスに注意すること。	

5. 「卒業に必要な単位数」に算入されない教養展開科目について

以下の教養展開科目は、内容が専門教育科目と重複するため「卒業に必要な単位」として認めない。なお、普遍教育科目の変更などによって追加される科目が生じることもあるので注意すること。追加・修正等については年度初めのガイダンスで指示する。

「実験で体験する物理」, 「実験で体験する物理A, B」

6. その他

- (1) 履修する科目、単位の修得、卒業に関しては、この履修課程に記載された内容にしたがって行われる。熟読すると同時に、卒業まで大切に所持しておくこと。
- (2) 本冊子に示してある履修課程は、教科内容の充実にもなって一部改訂されることがあるので、年度始めのガイダンスにはこの冊子を持参して必ず出席し、指示に従うこと。
- (3) 建築学コースの前身である建築学科のカリキュラムは、2003年度より JABEE（日本技術者教育認定機構）による建築教育プログラムの認定を受けており、建築学コースも同様に認定を受けている。JABEE に関しては <http://www.jabee.org/> を参照すること。
- (4) 建築士の受験資格を得るために履修を必要とする科目については公益社団法人建築技術教育普及センターHP (<https://www.jaeic.or.jp/>) で確認すること。

② 都市工学コース (Department of Urban Engineering)

○ コースの理念

現在、豊かで快適な都市生活を実現するための技術革新の必要性が認識されています。人と環境が共存する都市をつくるには、たとえば、低炭素社会の実現、エネルギーリサイクルなどの技術が必要になります。また、災害に強い都市をつくるための防災技術、安全で使いやすい情報通信システム、人口減少型時代に対応したコミュニティ形成など、様々な技術課題を多角的・総合的に捉える視野も大切です。都市工学コースは、都市のあり方を総合的に教育・研究するカリキュラムを用意し、21世紀の豊かな都市の創造に向けて、探究心と総合的視野を持ちつつ積極的に取り組む意欲のある人材の育成を目指しています。

○ コースの教育目標

都市工学コースの教育カリキュラムは、都市生活の基盤となるハード対策、人と人とのコミュニティなどのソフト対策に関する工学的技術を幅広く学び、確かな専門性を身に付けることができるように、

- 現場での体験型演習や実験
- 実社会との関係
- 少人数による実践的トレーニング
- 常に新鮮で実践に生きる知識
- 国際交流

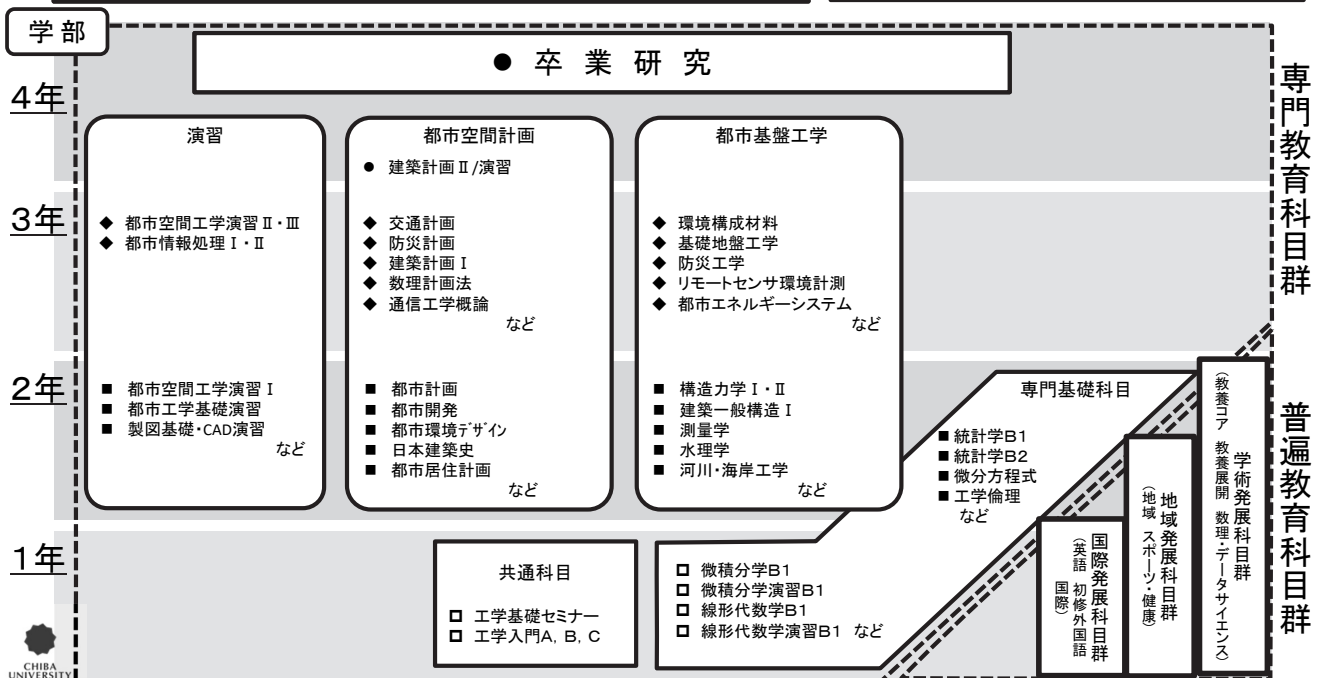
の5つを重視して構成されています。

コースは、都市空間計画（ソフト系）、都市基盤工学（ハード系）の2つの領域から構成され、都市計画、住環境計画、交通計画、都市デザイン、都市情報、都市施設構造、都市防災、建設材料、水循環、エネルギー、リモートセンシングなどのテーマについて、2つの領域が密接に連携しながら教育と研究を進めています。

	第1チーム・第2チーム	第4チーム・第5チーム	第7チーム・第8チーム	第10チーム・第11チーム	第13チーム・第14チーム	第16チーム・第17チーム	第19チーム・第20チーム	第22チーム・第23チーム	
専門基礎科目	工学基礎セミナー	工学入門B	総合工学プロジェクト						
	工学入門A	工学入門C							
	微積分学B1/演習	微積分学B2/演習	微分方程式	複素解析	偏微分方程式	■ 必修科目			
	線形代数学B1/演習	線形代数学B2/演習	統計学B1	統計学B2					
	力学基礎1/演習	力学基礎2/演習							
		電磁気学基礎1/演習	熱・統計力学基礎/演習						
		物理学基礎実験Ⅰ							
		化学基礎実験							
		化学基礎A	化学基礎B						
			知能システム入門	工学倫理					
専門科目	国際実習								
				工学英語					
	都市空間計画	都市計画	都市開発	交通計画	都市経済				
		世界建築史	日本建築史	都市環境デザイン	建築の保全と再生	防災計画			
				都市居住計画	建築計画Ⅰ	都市建築法規・行政	建築計画Ⅱ/演習	卒業研究(卒業計画)	
				環境制度論	環境経済学				
				測量学	建築一般構造Ⅰ	建築一般構造Ⅱ	都市施設生産		
				構造力学Ⅰ/演習	構造力学Ⅱ/演習	環境構成材料	基礎地盤工学		
					振動工学	防災工学			
				水理学	河川・海岸工学	リモートセンサ環境計測	都市エネルギーシステム		
				環境工学Ⅰ		建築設備計画Ⅰ	建築設備計画Ⅱ		
						数理計画法	通信工学概論		
	演習			都市工学基礎演習	都市情報処理Ⅰ	都市情報処理Ⅱ			
				製図基礎・CAD演習	都市空間工学演習Ⅰ	都市空間工学演習Ⅱ	都市空間工学演習Ⅲ		
					インターンシップ				

工学部 総合工学科 都市工学コース カリキュラム・ツリー

□ 水準100 ■ 水準200 ◆ 水準300 ● 水準400



科目区分	授業科目	ナンバリング	単位数	必修選択別	週当たりの授業時間数																		備考
					1年次				2年次				3年次				4年次						
					T1	T2	T4	T5	T7	T8	T10	T11	T13	T14	T16	T17	T19	T20	T22	T23			
専門基礎科目	工学基礎セミナー	TX120	2	◎	2	2																	
	工学入門A (自コース)	TX108	1	◎		2																	
	工学入門B (他コース1[自系])	TX109	1	◎			2																
	工学入門C (他コース2)	TX110	1				2																
	微積分学B 1	CM102	2	◎	2	2																	
	微積分学B 2	CM103	2	◎			2	2															
	微積分学演習B 1	CM104	1	◎	1	1																	
	微積分学演習B 2	CM105	1	◎			1	1															
	線形代数学B 1	CM107	2	◎	2	2																	
	線形代数学B 2	CM108	2	◎			2	2															
	線形代数学演習B 1	CM109	1	◎	1	1																	
	線形代数学演習B 2	CM110	1	◎			1	1															
	総合工学プロジェクト	TX310	2																	30 通期集中			
	微分方程式	CM203	2	○					2	2													
	統計学B 1	CM205	2	◎					2	2													
	統計学B 2	CM206	2	◎						2	2												
	複素解析	CM202	2	○								2	2										
	偏微分方程式	CM204	2	○										2	2								
	力学基礎 1	CP103	2	○	2	2																	
	力学基礎演習 1	CP108	1	○	1	1																	
	力学基礎 2	CP104	2	○			2	2															
	力学基礎演習 2	CP109	1	○			1	1															
	電磁気学基礎 1	CP106	2	○			2	2															
	電磁気学基礎演習 1	CP111	1	○			1	1															
	熱・統計力学基礎	CP202	2	○						2	2												
	熱・統計力学基礎演習	CP205	1	○						1	1												
	物理学基礎実験 I	CP112	1	○			(2)	(2)															
	化学基礎実験	CC106	1	○			(2)	(2)															
	化学基礎A	TX111	2	○	2	2																	
	化学基礎B	TX112	2	○			2	2															
	知能システム入門	TX203	2	○					2	2										工学部共通科目			
	工学倫理	TX201	1	○						2										工学部共通科目			
専門科目	世界建築史	TA121	2	○			2	2															
	都市工学基礎演習	TB201	2	◎				2	2														
	都市計画	TB203	2	○				2	2														
	日本建築史	TA221	2	○				2	2														
	環境工学 I	TB206	2	○				2	2														
	構造力学 I	TB207	2	○				2	2														
	構造力学演習 I	TB208	2	○				2	2														
	測量学	TB214	2	○				2	2														
	製図基礎・CAD演習	TB151	2	○				2	2														
	水理学	TB215	2	○				2	2														
	都市空間工学演習 I	TB251	2	○					2	2													
	都市開発	TB253	2	○					2	2													
	都市環境デザイン	TA224	2	○					2	2													
	都市居住計画	TB255	2	○					2	2													
	建築一般構造 I	TB257	2	○					2	2													
	構造力学 II	TB258	2	○					2	2													
	構造力学演習 II	TB259	2	○					2	2													

科目区分	授業科目	ナンバリング	単位数	必修選択別	週当たりの授業時間数																		備考
					1年次				2年次				3年次				4年次						
					T1	T2	T4	T5	T7	T8	T10	T11	T13	T14	T16	T17	T19	T20	T22	T23			
	環境制度論	TB263	2							2	2												
	河川・海岸工学	TB269	2	○						2	2												
	都市空間工学演習Ⅱ	TB301	3	○								3	3										
	都市情報処理Ⅰ	TB152	2	○								2	2										
	インターンシップ	TB303	2									(60)											
	交通計画	TB305	2	○								2	2										
	建築計画Ⅰ	TB307	2	○								2	2										
	建築一般構造Ⅱ	TB309	2	○								2	2										
	環境構成材料	TB310	2	○								2	2										
	振動工学	TB312	2	○								2	2										
	リモートセンサ環境計測	TB320	2	○								2	2										
	環境経済学	TB316	2									2	2										
	数理計画法	TB317	2	○								2	2										
	建築の保全と再生	TA321	2	○								2	2										
	建築設備計画Ⅰ	TA341	2	○								2	2										
専門科目	都市空間工学演習Ⅲ	TB351	3	○										3	3								
	都市情報処理Ⅱ	TB153	2	○										2	2								
	都市建築法規・行政	TB355	2	○										2	2								
	都市施設生産	TB356	2	○										2	2								
	基礎地盤工学	TB357	2	○										2	2								
	防災工学	TB358	2	○										2	2								
	都市エネルギーシステム	TB360	2	○										2	2								
	通信工学概論	TB364	2	○										2	2								
	都市経済	TB366	2	○										2	2								
	防災計画	TB367	2	○										2	2								
	建築設備計画Ⅱ	TA342	2	○										2	2								
	建築計画Ⅱ	TA322	2	○												2	2						
	建築計画演習Ⅱ	TA323	1	○												(2)	(2)						
	工学英語	TX303	2	◎									2	2									
	国際実習	TX320	2	○											(60)					留学科目			
	海外留学認定科目Ⅰ	TX321	2												30					留学科目			
	海外留学認定科目Ⅱ	TX322	2												30					留学科目			
	海外留学認定科目Ⅲ	TX323	2												30					留学科目			
	卒業研究	TB401	6	◎															90				

注1. 集中講義については、週当たりの授業時間数ではなく、総時間数を記載している。

注2. ◎は必修科目、○は選択必修科目、無印は選択科目を示す。

注3. 実験、実習の授業時間数は()で示す。

1. 卒業に必要な単位数

(一般学生用)

普通教育科目													専門教育科目		卒業単位数	
国際発展科目群			地域発展科目群			学術発展科目群							専門基礎科目	専門科目		
英語科目	初修外国語科目※1	国際科目		スポーツ・健康科目	地域科目		教養コア科目			教養展開科目	サイエンス科目 数理・データ					
		基礎	展開		基礎	展開	論理	生命	文化		環境	基礎	展開			
6~10	0~4	1	1	0~2	1	1	1	1	1	1	5~9	2	1	26~	68~	130 単位
8~12			2~4			12~16							26~	68~		
26 単位													104 単位			

※1 初修外国語は、複数の外国語にまたがって履修してよい。

(外国人留学生用)

普通教育科目													専門教育科目		卒業単位数		
国際発展科目群			地域発展科目群			学術発展科目群							専門基礎科目	専門科目			
英語科目※1	日本語科目	初修外国語科目※2	国際科目		スポーツ・健康科目	地域科目		教養コア科目			教養展開科目	サイエンス科目 数理・データ					
			基礎	展開		基礎	展開	論理	生命	文化		環境	基礎	展開			
6~10	0~4	0~4	1	1	0~2	1	1	1	1	1	1	5~9	2	1	26~	68~	130 単位
8~12			2~4			12~16							26~	68~			
26 単位													104 単位				

※1 英語が母国語の人は、英語以外の外国語から履修すること。

※2 初修外国語は、複数の外国語にまたがって履修してよい。

(専門教育科目の卒業に必要な単位数)

(一般学生用, 外国人留学生用)

	必修科目	選択必修科目	選択科目	合計
専門基礎科目	20	6~	0~	26~
専門科目	10	34~	0~	68~

2. 3年次の進級について (進級ゲート)

下記条件を満たしていない場合、2年次から3年次に進級できない。

「卒業に必要な単位数」のうち62単位以上

3. 卒業研究の履修条件

「卒業に必要な単位数」のうち 104 単位以上

4. 履修上の注意

(1) 普遍教育科目履修に関する注意事項 (ア) 別途案内（掲示等）によりクラス分け指定がある科目は、これに従い履修登録すること。 (イ) 教養コア科目および専門基礎科目は指定科目を指定クラスで受講すること。それ以外で受講しても、その単位は「卒業に必要な単位数」には算入されない。	
(2) 他学部開講の専門基礎科目	履修はできるが「卒業に必要な単位数」には算入されない。
(3) 他コースの卒業要件科目である専門基礎科目	
(4) 他学部開講の専門科目	専門科目の選択科目として履修できるが、「卒業に必要な単位数」として算入できるのは 10 単位までとする。
(5) 他コース開講の専門科目	
(6) 千葉工業大学の指定科目	履修はできるが「卒業に必要な単位数」には算入されない。
(7) 卒業要件科目は推奨されている年次に履修すること。	

5. 建築士の受験資格

卒業後に一級・二級建築士の受験資格を得るために履修を必要とする科目と単位数については、公益財団法人建築技術教育普及センターHP で確認すること。卒業前に修得科目の確認が学生と教員の間で行われ、要件を満たした場合、建築士試験受験のための指定科目修得単位証明書が発行される。

6. その他

- (1) 履修する科目、単位の修得、卒業に関しては、この履修課程に記載された内容にしたがって行われる。熟読すると同時に、卒業まで大切に所持しておくこと。
- (2) 本冊子に示してある履修課程は、教科内容の充実にともなって一部改訂されることがあるので、年度始めのガイダンスにはこの冊子を持参して必ず出席し、指示に従うこと。

③ デザインコース (Department of Design)

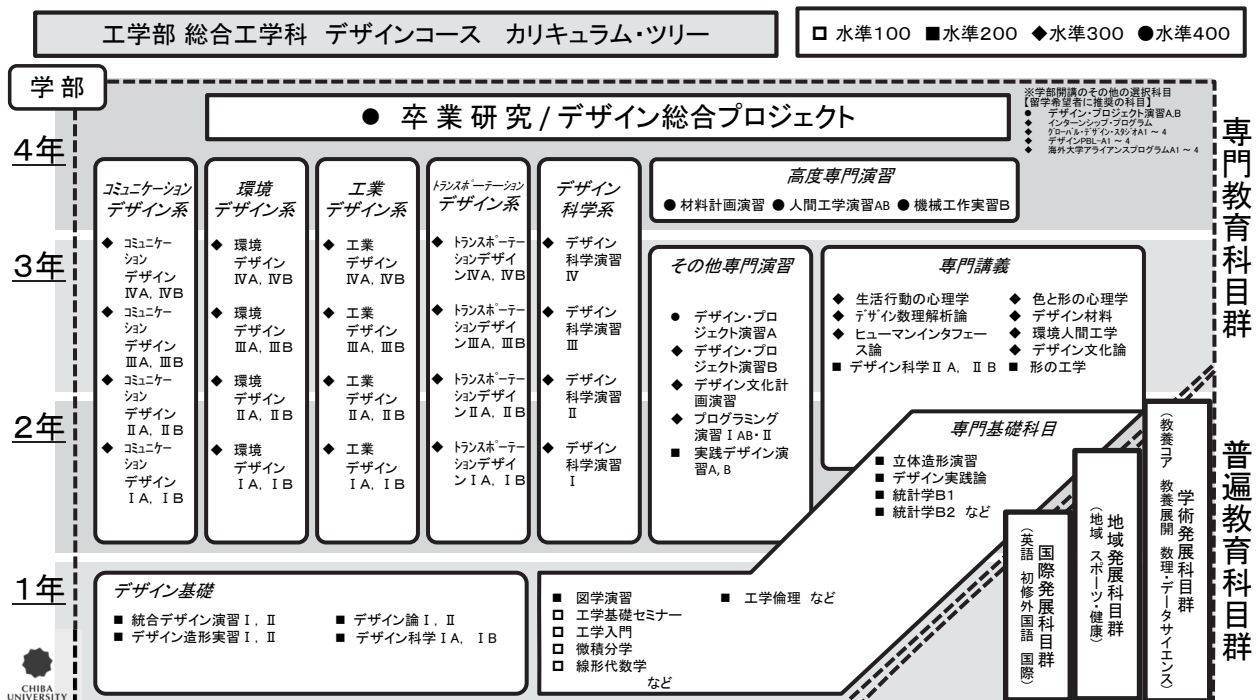
○ デザインコースの理念と教育目標

私達の生活や生活環境の課題を解決し、これを高質で美しいものに創造していくデザインは、今、あらゆる領域で重要視されています。本コースでは、生活文化と深く関わりながら、技術と科学に裏打ちされた芸術性・人間性豊かなデザインのあり方を標榜した教育と研究を行っています。多様なニーズに柔軟に対応でき、デザイン界をリードして国際的に活躍できる人材の育成をめざしています。

○ カリキュラムの特徴

入学された皆さんは、まず、教養教育としての普遍科目群、工学教育の基礎としての工学基礎科目群により一般基礎教育を学習します。また同時に、専門課程への基礎となる講義や演習によって、デザインに求められる教養としての知識や技術を身につけます。専門教育においては、2年次から3年次までの2年間にわたって用意された[工業デザイン、トランスポートデザイン、コミュニケーションデザイン、環境デザイン、デザイン科学演習]という5つの演習科目を通して、基礎から応用までの一貫した教育を体系的に学ぶことができます。以上の学習を終えると、4年間の集大成ともいべき卒業研究、あるいは、デザイン総合プロジェクトを履修します。

皆さんを指導する教員は、14の専門領域[モビリティデザイン、デザインマネージメント、システムプランニング、材料計画、意匠形態学、心理・行動科学、コミュニケーションデザイン、人間情報科学、コマーシャルデザイン、環境デザイン、人間生活工学、デザイン文化計画、コンテクスチュアルデザイン、サステナブルデザイン]を基盤としてお互いに連携を取り合っています。我が国屈指の教員から構成されるいずれの領域においても、人間とその生活行動における安全・安心、質の向上、快適性を目指し、美しい製品やシステムを「探求する」「構想する」「かたちづくる」ことができる高度デザイナーの育成をめざしています。さらに、学部を卒業した後、大学院に進学し、博士前期課程を含めた6年一貫教育、さらには博士後期課程までの9年一貫教育による高度な教育カリキュラムが用意されています。



科目区分	授業科目	ナンバリング	単位数	必修選択別	週当たりの授業時間数																			備考
					1年次					2年次					3年次					4年次				
					T1	T2	T4	T5	T7	T8	T10	T11	T13	T14	T16	T17	T19	T20	T22	T23				
専門基礎科目	工学基礎セミナー	TX120	2	◎	2	2																		
	工学入門A (自コース)	TX108	1	◎		2																		
	工学入門B(他コース1[自系])	TX109	1	◎			2																	
	工学入門C (他コース2)	TX110	1				2																	
	微積分学B 1	CM102	2	◎	2	2																		
	微積分学B 2	CM103	2	◎			2	2																
	微積分学演習B 1	CM104	1	◎	1	1																		
	微積分学演習B 2	CM105	1	◎			1	1																
	線形代数学B 1	CM107	2	◎	2	2																		
	線形代数学B 2	CM108	2	◎			2	2																
	線形代数学演習B 1	CM109	1	◎	1	1																		
	線形代数学演習B 2	CM110	1	◎			1	1																
	知能システム入門	TX203	2						2	2														
	総合工学プロジェクト	TX310	2												30						通期集中			
	図学演習	TC201	2	◎	2	2																		
	化学基礎A	TX111	2		2	2																		
	化学基礎B	TX112	2				2	2																
	物理学基礎実験 I	CP112	1				(2)	(2)																
	化学基礎実験	CC106	1				(2)	(2)																
	力学基礎 1	CP103	2		2	2																		
	力学基礎演習 1	CP108	1		1	1																		
	力学基礎 2	CP104	2				2	2																
	力学基礎演習 2	CP109	1				1	1																
	電磁気学基礎 1	CP106	2				2	2																
	電磁気学基礎演習 1	CP111	1				1	1																
	統計学B 1	CM205	2	◎					2	2														
	統計学B 2	CM206	2	◎							2	2												
	工学倫理	TX201	1												2									
	立体造形演習	TC202	3						3	3														
	デザイン実践論	TC203	2								2	2												
専門科目	統合デザイン演習 I	TC204	3	◎	3	3																		
	デザイン造形実習 I	TC205	2	◎	(4)	(4)																		
	デザイン論 I	TC206	2	◎	2	2																		
	デザイン造形実習 II	TC207	2	◎			(4)	(4)																
	統合デザイン演習 II	TC208	3	◎			3	3																
	デザイン論 II	TC209	2	◎			2	2																
	デザイン科学 I A	TC210	1	◎			1																	
	デザイン科学 I B	TC211	1	◎				1																
	デザイン科学 II A	TC212	1	◎					1															
	デザイン科学 II B	TC213	1	◎						1														
	形の工学	TC214	2	○					2	2										[4. (8) (イ)]				
	工業デザイン I A	TC301	1.5	○						3										4科目以上の履修を推奨する [4. (8) (ア)].				
	工業デザイン I B	TC302	1.5	○							3													
	トランスポートデザイン I A	TC303	1.5	○								3												
	トランスポートデザイン I B	TC304	1.5	○									3											
	環境デザイン I A	TC305	1.5	○										3										
	環境デザイン I B	TC306	1.5	○											3									
コミュニケーションデザイン I A	TC307	1.5	○												3									
コミュニケーションデザイン I B	TC308	1.5	○													3								
デザイン科学演習 I	TC309	3								3	3								大学院への進学を予定する者は履修を推奨する。					

科目区分	授業科目	ナンバリング	単位数	必修選別	週当たりの授業時間数																			備考
					1年次					2年次					3年次					4年次				
					T1	T2	T4	T5	T7	T8	T10	T11	T13	T14	T16	T17	T19	T20	T22	T23				
専門科目	工業デザインⅡA	TC310	1.5	○						3											4科目以上の履修を推奨する〔4.(8)(ア)〕.			
	工業デザインⅡB	TC311	1.5	○								3												
	トランスポーテーションデザインⅡA	TC312	1.5	○						3														
	トランスポーテーションデザインⅡB	TC313	1.5	○							3													
	環境デザインⅡA	TC314	1.5	○						3														
	環境デザインⅡB	TC315	1.5	○							3													
	コミュニケーションデザインⅡA	TC316	1.5	○						3														
	コミュニケーションデザインⅡB	TC317	1.5	○							3													
	デザイン科学演習Ⅱ	TC318	3							3	3										大学院への進学を予定する者は履修を推奨する.			
	ヒューマンインタフェース論	TC319	2	○						2	2										T7T8の「形の工学」とこれら3科目のうち2科目以上を選択〔4.(8)(イ)〕			
	デザイン材料	TC320	2	○						2	2													
	デザイン文化論★	TC321	2	○						2	2													
	プログラミング演習ⅠA	TC361	1.5								3													
	プログラミング演習ⅠB	TC362	1.5									3												
	実践デザイン演習A	TC215	1.5								3													
	実践デザイン演習B	TC216	1.5									3												
	工業デザインⅢA	TC323	1.5	○									3									4科目以上の履修を推奨する〔4.(8)(ア)〕.		
	工業デザインⅢB	TC324	1.5	○										3										
	トランスポーテーションデザインⅢA	TC325	1.5	○									3											
	トランスポーテーションデザインⅢB	TC326	1.5	○										3										
	環境デザインⅢA	TC327	1.5	○									3											
	環境デザインⅢB	TC328	1.5	○										3										
	コミュニケーションデザインⅢA	TC329	1.5	○									3											
	コミュニケーションデザインⅢB	TC330	1.5	○										3										
	デザイン科学演習Ⅲ	TC331	3										3	3								大学院への進学を予定する者は履修を推奨する.		
	デザイン数理解析論	TC332	2										2	2										
	色と形の心理学	TC333	2										2	2										
	環境人間工学	TC334	2										2	2										
	プログラミング演習Ⅱ	TC335	3										3	3										
	デザイン文化計画演習★	TC336	3																			T15開講		
	工業デザインⅣA	TC337	1.5	○										3								4科目以上の履修を推奨する〔4.(8)(ア)〕.		
	工業デザインⅣB	TC338	1.5	○											3									
	トランスポーテーションデザインⅣA	TC339	1.5	○										3										
	トランスポーテーションデザインⅣB	TC340	1.5	○											3									
	環境デザインⅣA	TC341	1.5	○										3										
	環境デザインⅣB	TC342	1.5	○											3									
	コミュニケーションデザインⅣA	TC343	1.5	○										3										
	コミュニケーションデザインⅣB	TC344	1.5	○											3									
	デザイン科学演習Ⅳ	TC345	3										3	3								大学院への進学を予定する者は履修を推奨する.		
	生活行動の心理学	TC346	2											2	2									
	材料計画演習	TC401	3															3	3					
	人間工学演習A	TC408	1.5																3					
	人間工学演習B	TC409	1.5																	3				
	インターンシップ・プログラム	TC347	2																			(60)		
	デザイン・プロジェクト演習A	TC348	1.5																			22.5	通期集中	
デザイン・プロジェクト演習B	TC404	1.5																			22.5	通期集中		
機械工作実習B	TC405	1																	(2)	(2)				
海外大学アライアンスプログラムA1	TC349	2																			(60)	留学科目		
海外大学アライアンスプログラムA2	TC350	2																			(60)	留学科目		
海外大学アライアンスプログラムA3	TC351	2																			(60)	留学科目		
海外大学アライアンスプログラムA4	TC352	2																			(60)	留学科目		

科目区分	授業科目	ナンバリング	単位数	必修選択別	週当たりの授業時間数																		備考
					1年次				2年次				3年次				4年次						
					T1	T2	T4	T5	T7	T8	T10	T11	T13	T14	T16	T17	T19	T20	T22	T23			
専門科目	デザインPBL-A1	TC353	2																	(60)			
	デザインPBL-A2	TC354	2																	(60)			
	デザインPBL-A3	TC355	2																	(60)			
	デザインPBL-A4	TC356	2																	(60)			
	工学英語	TX303	2	◎										2	2								
	国際実習	TX320	2																	(60)	留学科目		
	卒業研究	TC406	6	◎																90	どちらか一方を選択〔3〕		
	デザイン総合プロジェクト	TC407	6	◎															90				
	グローバル・デザイン・スタジオA1	TC357	2																	30	留学生（特別聴講学生）専用		
	グローバル・デザイン・スタジオA2	TC358	2																	30	留学生（特別聴講学生）専用		
	グローバル・デザイン・スタジオA3	TC359	2																	30	留学生（特別聴講学生）専用		
	グローバル・デザイン・スタジオA4	TC360	2																	30	留学生（特別聴講学生）専用		
	デジタルクリエイティブ応用	TC222	2																	30	T3 T9 開講		

注1. 集中講義については、週当たりの授業時間数ではなく、総時間数を記載している。

注2. ◎は必修科目，○は選択必修科目，無印は選択科目を示す。

注3. 実験, 実習の授業時間数は()で示す。

注4. ★は「ローカル・イノベーション学」指定科目

デザインコースでは、専門科目において、デザインの基礎と応用が学習できる系統立った授業カリキュラムを提供している。以下の3段階の構成でデザインの基礎と応用について学習する。

- ① 1～8タームでは、デザイン論Ⅰ・Ⅱおよびデザイン科学ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡBによってデザインにおける基礎的な知識を体系的に獲得する。一方、統合デザイン演習Ⅰ・Ⅱおよびデザイン造形実習Ⅰ・Ⅱによってデザインに必要な基礎的な技能の獲得を行う。
- ② 7～18タームでは、各自の適性と興味に応じて専門選択必修科目群である工業デザインⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB，トランスポートデザインⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB，環境デザインⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB，コミュニケーションデザインⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣBから1つの科目群を履修し、応用的な専門知識を獲得する。可能な限り、各ターム2科目以上の履修を推奨する。また大学院進学予定者は、これらの科目群と並行して開設されるデザイン科学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの履修を推奨する。
- ③ 最終学年である19～24タームにおいては、各指導教員のもとで個別に行う卒業研究、もしくは複数の教員と複数の学生が1つのデザイン課題について取り組むデザイン総合プロジェクトのいずれかを選択し履修しなければならない。また、これらの必修科目および専門選択必修科目を取り囲むように多彩な専門選択科目も提供されるので、できる限り多くのデザインに関する知識を獲得することを推奨する。

1. 卒業に必要な単位数

(一般学生用)

普通教育科目												専門教育科目		卒業単位数		
国際発展科目群			地域発展科目群			学術発展科目群						専門基礎科目	専門科目			
英語科目	初修外国語科目※1	国際科目		スポーツ・健康科目	地域科目		教養コア科目			教養展開科目					数理・データサイエンス科目	
					基礎	展開		基礎	展開	論理	生命	文化	環境	基礎		展開
6～10	0～4	1	1	0～2	1	1	1	1	1	1	5～9	2	1	27～	64～	130 単位
8～12			2～4			12～16						104 単位				
26 単位																

※1 初修外国語は、複数の外国語にまたがって履修してよい。

(外国人留学生用)

普通教育科目												専門教育科目		卒業単位数			
国際発展科目群			地域発展科目群			学術発展科目群						専門基礎科目	専門科目				
英語科目※1	日本語科目	初修外国語科目※2	国際科目		スポーツ・健康科目	地域科目		教養コア科目			教養展開科目				数理・データサイエンス科目		
							基礎	展開		基礎	展開	論理	生命	文化		環境	基礎
6～10	0～4	0～4	1	1	0～2	1	1	1	1	1	1	5～9	2	1	27～	64～	130 単位
8～12			2～4			12～16						104 単位					
26 単位																	

※1 英語が母国語の人は、英語以外の外国語から履修すること。

※2 初修外国語は、複数の外国語にまたがって履修してよい。

(専門教育科目の卒業に必要な単位数)

(一般学生用, 外国人留学生用)

	必修科目	選択必修科目	選択科目	合計
専門基礎科目	2 2	—	5～	2 7～4 0
専門科目	2 6	1 6～	0～	6 4～7 7

2. 3年次の進級について (進級ゲート)

下記条件を満たしていない場合、2年次から3年次に進級できない。

「卒業に必要な単位数」のうち62単位以上

3. 卒業研究またはデザイン総合プロジェクトの履修条件

「卒業に必要な単位数」のうち104単位以上

専門科目:

必修科目: 18単位以上

選択必修科目: 4. 履修上の注意 (8) (ア) から12単位以上, (イ) から4単位以上

その他: 十分な普通教育科目及び指導教員が必要と認める専門教育科目の履修をし、単位を修得していること。

4. 履修上の注意

(1) 普遍教育科目履修に関する注意事項 (ア) 別途案内(掲示等)によりクラス分け指定がある科目は、これに従い履修登録すること。 (イ) 教養コア科目および専門基礎科目は指定科目を指定クラスで受講すること。それ以外で受講しても、その単位は原則として、「卒業に必要な単位数」には算入されない。	
(2) 他学部開講の専門基礎科目	履修はできるが「卒業に必要な単位数」には算入されない。
(3) 他コースの卒業要件科目である専門基礎科目	専門科目の選択科目として受講できるが、「卒業に必要な単位数」として算入できるのは下記(5)、(6)と合わせて10単位までとする。
(4) 他学部開講の専門科目	履修はできるが「卒業に必要な単位数」には算入されない。
(5) 他コース開講の専門科目	専門科目の選択科目として受講できるが、「卒業に必要な単位数」として算入できるのは上記(3)と合わせて10単位までとする。
(6) 千葉工業大学の指定科目	
(7) 卒業要件科目は推奨されている年次に履修すること。	
(8) 専門科目の履修方法について (ア) 工業デザインⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB, トランスポーターデザインⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB, 環境デザインⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB, コミュニケーションデザインⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB の履修における注意事項を以下に示す。 ● 上記の科目から、タームごとに1科目以上を履修しなければならないが、2科目以上の履修を推奨する。また、1つの科目群を連続して履修することが望ましい(ただし、各科目の履修条件についてはそれぞれのシラバスに従うこと)。 ● 上記の科目は、授業内容に応じ西千葉キャンパスと墨田サテライトキャンパスのいずれかで実施する。2年次と3年次に履修予定の科目がどちらのキャンパスでの受講になるかをふまえ、履修を計画することを推奨する。 (イ) 形の工学, ヒューマンインタフェース論, デザイン材料, デザイン文化論から2科目以上を履修しなければならない。 (ウ) 機械工作実習Bは, デザインコース学生のために特に開講されている授業科目なので, できる限り履修すること。	

5. 年間の履修登録単位数の上限について

- (1) 各年次の履修登録単位数の上限は、次のとおりとする。ただし、通年開講科目の登録単位数は、その半数を各学期に履修登録したものとみなす。

1年次		2年次		3年次		4年次	
50単位		42単位		42単位		40単位	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
23-28 単位*	22-27 単位*	21 単位	21 単位	21 単位	21 単位	20 単位	20 単位
備考 *1年次は通年で50単位を超えないように履修すること。							

- (2) 「不可」と評価された科目の再履修に関しては、原則として年間12単位まで登録単位数上限の計算から除外する。
- (3) 次項で規定する「成績優秀者」は、次の学期において原則6単位まで上限を超えて履修登録することができる。
- (4) 3年次編入学生については、状況に応じて柔軟に対応するため、教育委員に相談すること。

6. 成績優秀者について

成績優秀者の認定基準は、次に掲げる要件のすべてを満たすこととする。

- (1) 登録単位数の上限、又は上限から1単位減じた単位数の卒業要件科目を履修登録していること。
- (2) (1)の学期において、履修登録した卒業要件科目の単位（前期においては通年開講科目の単位を除く。）をすべて修得し、かつ、その学期のGPAが3.00以上であること。

7. 早期卒業について

- (1) 早期卒業を希望し、2年次終了時に次に掲げる要件（ア）～（オ）を満たした者は、コース長に申請を行う。審査の結果、要件のすべてに該当した者は早期卒業適格者とし、3年次において4年次に履修指定された必修科目の履修を認める。
 - (ア) 2年次終了時において、「卒業に必要な単位数」を90単位以上（先進科学プログラムを履修している学生は96単位以上）修得していること。
 - (イ) 普遍教育科目のうち、教養展開科目を除く卒業要件科目の単位をすべて修得していること。
 - (ウ) 専門教育科目のうち、1・2年次に履修指定された必修科目の単位をすべて修得していること。
 - (エ) 2年次終了時のGPAが3.00以上であること。
 - (オ) 前項の成績優秀者に1回以上認定されること。
- (2) 早期卒業の要件は、次に掲げる事項のすべてを満たすこととし、3年次終了時又は4年次前期終了時に卒業することが可能である。
 - (ア) デザインコースに3年以上在学すること。
 - (イ) デザインコースの卒業要件を満たすこと。
 - (ウ) 早期卒業認定時までの通算のGPAが3.00以上であること。
 - (エ) デザインコースが実施する試験に合格すること。

8. 墨田サテライトキャンパスでの授業の実施について

デザインコースでは、西千葉キャンパスならびに墨田サテライトキャンパスにおいて授業を実施する。

9. その他

- (1) 履修する科目、単位の修得、卒業に関しては、この履修課程に記載された内容にしたがって行われる。熟読すると同時に、卒業まで大切に所持しておくこと。
- (2) 本冊子に示してある履修課程は、教科内容の充実にもなっており一部改訂されることがあるので、年度始めのガイダンスにはこの冊子を持参して必ず出席し、指示に従うこと。

④ 機械工学コース (Department of Mechanical Engineering)

○ コース理念

機械技術は、航空宇宙産業から日常生活用品にいたるまで、あらゆる産業の基盤をなし、機械技術者の優劣は一国の命運をも左右しかねないといえます。機械技術者はいかなる産業のどのような状況下にあっても、起こりうる問題に正面から向きあい、正確な情報分析に基づく的確な判断のもと、あらゆる問題に適切に対処していかなければなりません。さらに、創造力を活用して今までに無かった、まったく新しい問題に取り組む必要性もあります。物理・化学・生物学的な現象を工学に応用し、新しい学問分野を開拓することも機械工学の重要な使命です。機械技術者として様々な課題に対処できるように、機械工学コースは、機械技術やものづくりに関する基礎科目を重視し、問題の発見と分析を行い、創造力を活かして問題を解決する能力を基礎から養成することを目標としています。

○ 教育目的

機械工学コースは「プロ」の技術者、研究者を育成することを目的としています。そのためには、数学、物理学などの基礎科目を十分に修得したうえで、機械工学の基盤となる専門科目を学び、さらにより専門化された領域の科目を学びます。そのいずれの学習過程においても、事象の本質的理解と修得知識の応用、論理的かつ柔軟な思考力と計画的アプローチ、システムデザイン能力と自己表現、技術者倫理に基づく責任などを教育目的とします。

ターム	T1-2	T4-5	T7-8	T10-11	T13-14	T16-17	T19-20	T22-23
数学	線形代数学B1 線形代数学演習B1 微積分学B1 微積分学演習B1	線形代数学B2 線形代数学演習B2 微積分学B2 微積分学演習B2	微分方程式 微分方程式演習 工業数学Ⅰ	工業数学Ⅱ				
機械力学	力学基礎1 力学基礎演習1	力学基礎2 力学基礎演習2		解析力学	機械振動学 ロボット工学	バイオメカニクス		
機械材料			材料科学	鉄鋼材料	非鉄金属材料			
材料力学			材料力学Ⅰ 材料力学演習Ⅰ	材料力学Ⅱ 材料力学演習Ⅱ	弾塑性力学 連続体力学			
加工					機械加工Ⅰ	機械加工Ⅱ		
熱・流体力学			熱力学Ⅰ 熱力学演習Ⅰ	熱力学Ⅱ 熱力学演習Ⅱ 流体力学Ⅰ 流体力学演習Ⅰ	連続体力学 熱流体工学 流体力学Ⅱ 流体力学演習Ⅱ	バイオメカニクス		
計測・制御			メカトロニクス	基礎制御理論Ⅰ	ロボット工学 基礎制御理論Ⅱ	計測基礎論		
要素・設計・製図				設計基礎論	機械製図基礎	機械設計製図		
実験・実習	物理学基礎実験Ⅰ				機械工学実験	機械工学実験 機械工学実習		
計算機	(情報リテラシー)		プログラミング			数値計算法		
総合	工学基礎セミナー 工学入門A (自コース)	工学入門B (他コース1) 工学入門C (他コース2)			工学英語 総合工学プロジェクト(通期集中)	エンジニアリングデザイン 総合工学プロジェクト(通期集中)	卒業研究 自動車工学 総合工学プロジェクト(通期集中)	卒業研究 総合工学プロジェクト(通期集中)
その他	化学基礎A	電磁気学基礎1 電磁気学基礎演習1 化学基礎B	知能システム入門	量子力学基礎 量子力学基礎演習				

機械工学コースカリキュラムと学問領域

4年
3年
2年
1年

専門科目

- ◆ 熱流体工学
- ◆ バイオメカニクス
- ◆ 機械振動学
- ◆ ロボット工学
- ◆ 弾塑性力学
- ◆ 機械加工学Ⅱ
- ◆ 機械加工学Ⅰ
- 数値計算法
- 計測基礎論
- 非鉄金属材料
- ◆ 工学英語

- 鉄鋼材料
- メカトロニクス
- プログラミング
- 材料科学

- ◆ 国際実習

機械工学体系の基礎科目

- ◆ 連続体力学
- 流体力学Ⅱ
- 流体力学演習Ⅱ
- 基礎制御理論Ⅱ
- 熱力学Ⅱ
- 熱力学演習Ⅱ
- 解析力学
- 材料力学Ⅱ
- 材料力学演習Ⅱ
- 工業数学Ⅰ
- 工業数学Ⅱ
- 流体力学Ⅰ
- 流体力学演習Ⅰ
- 熱力学Ⅰ
- 熱力学演習Ⅰ
- 基礎制御理論Ⅰ
- 材料力学Ⅰ
- 材料力学演習Ⅰ

実験 実習
設計 製図

- ◆ 機械設計製図
- ◆ 機械工学実習
- ◆ 機械工学実験
- 機械製図基礎
- 設計基礎論
- 物理学基礎実験Ⅰ

● 卒業研究

総合

- インターンシップ
- 自動車工学
- ◆ エンジニアリングデザイン
- ◆ 総合工学プロジェクト

専門基礎科目

- 知能システム入門
- 微分方程式
- 微分方程式演習
- 量子力学基礎
- 量子力学基礎演習

- | | | |
|---------------|-------------|-------------|
| □ 力学基礎1 | □ 微積分学B1 | □ 微積分学B2 |
| □ 力学基礎演習1 | □ 微積分学演習B1 | □ 微積分学演習B2 |
| □ 力学基礎2 | □ 線形代数学B1 | □ 線形代数学B2 |
| □ 力学基礎演習2 | □ 線形代数学演習B1 | □ 線形代数学演習B2 |
| □ 化学基礎A | □ 電磁気学基礎1 | |
| □ 化学基礎B | □ 電磁気学基礎演習1 | |
| □ 工学入門A, B, C | □ 工学基礎セミナー | |

専門教育科目群

普遍教育科目群

学術発展科目群
(教養コア 教養展開 数理・データサイエンス)

地域発展科目群
(地域 スポーツ・健康)

国際発展科目群
(英語 初修外国語 国際)



科目区分	授業科目	ナンバリング	単位数	必修選択別	週当たりの授業時間数																			備考
					1年次					2年次					3年次					4年次				
					T1	T2	T4	T5	T7	T8	T10	T11	T13	T14	T16	T17	T19	T20	T22	T23				
専門基礎科目	工学基礎セミナー	TX120	2	◎	2	2																		
	工学入門A (自コース)	TX108	1	◎		2																		
	工学入門B (他コース1[自系])	TX109	1	◎			2																	
	工学入門C (他コース2)	TX110	1	○			2																	
	微積分学B 1	CM102	2	◎	2	2																		
	微積分学演習B 1	CM104	1	◎	1	1																		
	微積分学B 2	CM103	2	◎			2	2																
	微積分学演習B 2	CM105	1	◎			1	1																
	線形代数学B 1	CM107	2	◎	2	2																		
	線形代数学演習B 1	CM109	1	◎	1	1																		
	線形代数学B 2	CM108	2	◎			2	2																
	線形代数学演習B 2	CM110	1	◎			1	1																
	知能システム入門	TX203	2	○					2	2														
	総合工学プロジェクト	TX310	2																				30 通期集中	
	力学基礎1	CP103	2	◎	2	2																		
	力学基礎演習1	CP108	1	○	1	1																		
	力学基礎2	CP104	2	◎			2	2																
	力学基礎演習2	CP109	1	○			1	1																
	物理学基礎実験I	CP112	1	◎	(2)	(2)																		
	化学基礎A	TX111	2	○	2	2																		
	化学基礎B	TX112	2				2	2																
	電磁気学基礎1	CP106	2	○			2	2																
	電磁気学基礎演習1	CP111	1				1	1																
微分方程式	CM203	2	◎					2	2															
微分方程式演習	TD202	2	○					2	2															
量子力学基礎	CP203	2								2	2													
量子力学基礎演習	CP206	1								1	1													
専門科目	プログラミング	TD109	2	◎				2	2															
	材料科学	TD110	2	◎				2	2															
	工業数学I	TD211	2	◎				2	2															
	材料力学I	TD112	2	◎				2	2															
	熱力学I	TD113	2	◎				2	2															
	メカトロニクス	TD116	2	○				2	2															
	材料力学演習I	TD117	1	○				1	1															
	熱力学演習I	TD128	1	○				1	1															
	鉄鋼材料	TD214	2	◎						2	2													
	解析力学	TD219	2	◎						2	2													
	熱力学II	TD220	2	◎						2	2													
	材料力学II	TD221	2	◎						2	2													
	流体力学I	TD122	2	◎						2	2													
	基礎制御理論I	TD123	2	◎						2	2													
	設計基礎論	TD224	2	○						2	2													
	工業数学II	TD226	2	○						2	2													
	流体力学演習I	TD127	1	○						1	1													
	材料力学演習II	TD251	1	○						1	1													
	熱力学演習II	TD250	1	○						1	1													
	機械加工学I	TD229	2	◎								2	2											
	機械製図基礎	TD231	2	◎								(4)	(4)											
	流体力学II	TD232	2	◎								2	2											
	機械振動学	TD333	2	◎								2	2											

科目区分	授業科目	ナンバリング	単位数	必修選択別	週当たりの授業時間数																備考					
					1年次				2年次				3年次				4年次									
					T1	T2	T4	T5	T7	T8	T10	T11	T13	T14	T16	T17	T19	T20	T22	T23						
専門科目	弾塑性力学	TD334	2	◎										2	2											
	連続体力学	TD352	2	◎										2	2											
	機械工学実験	TD330	6	◎									(12)	(12)	(12)	(12)										
	非鉄金属材料	TD228	2	○										2	2											
	熱流体工学	TD235	2	○										2	2											
	基礎制御理論Ⅱ	TD238	2	○										2	2											
	ロボット工学	TD350	2	○										2	2											
	流体力学演習Ⅱ	TD249	1	○										1	1											
	計測基礎論	TD225	2	◎												2	2									
	機械設計製図	TD339	2	◎												(4)	(4)									
	機械工学実習	TD340	2	◎												(4)	(4)									
	エンジニアリングデザイン	TD356	2	◎												2	2									*1
	数値計算法	TD236	2	○												2	2									
	機械加工学Ⅱ	TD342	2	○												2	2									
	バイオメカニクス	TD344	2	○												2	2									
	インターンシップ	TD448	2														(60)									*2
	自動車工学	TD451	2																				2	2		
	工学英語	TX303	2	◎											2	2										
	国際実習	TX320	2														(60)									留学科目
	海外留学認定科目Ⅰ	TX321	2														30									留学科目
海外留学認定科目Ⅱ	TX322	2														30									留学科目	
海外留学認定科目Ⅲ	TX323	2														30									留学科目	
卒業研究	TD454	6	◎																				(180)			

注1. 集中講義については、週当たりの授業時間数ではなく、総時間数を記載している。

注2. ◎は「必修科目」、○は「選択必修科目」、無印は「選択科目」をそれぞれ示す。

注3. 実験・実習の授業時間数は（ ）で示す。またこれらの科目は、必要に応じて、指定された時間以上授業を行う。

備考：

*1：履修のためには、受講年度の前期終了時点で履修要件を満たしていることが必要である。

履修要件については教務ガイダンスで周知する。

*2：T15, T18, T21のいずれかで履修する。

1. 卒業に必要な単位数

(一般学生用)

普通教育科目											専門教育科目			卒業単位数	
国際発展科目群			地域発展科目群			学術発展科目群					専門基礎科目	専門科目			
英語科目	初修外国語科目※1	国際科目		健康科目 スポーツ・	地域科目		教養コア科目			教養展開科目			数理・データ サイエンス科目		24 単位以上
		基礎	展開		基礎	展開	論理	生命	文化		環境	基礎	展開		
6～10	0～4	1	1	0～2	1	1	1	1	1	1	5～9	2	1		
8～12			2～4			12～16					104 単位 (選択必修科目 24 単位を含む)				
26 単位															

※1 初修外国語は、複数の外国語にまたがって履修してよい。

(外国人留学生用)

普通教育科目											専門教育科目			累計単位数		
国際発展科目群			地域発展科目群			学術発展科目群					専門基礎科目	専門科目				
英語科目※1	日本語科目	初修外国語科目※2	国際科目		健康科目 スポーツ・	地域科目		教養コア科目					教養展開科目	数理・データ サイエンス科目		24 単位以上
			基礎	展開		基礎	展開	論理	生命	文化	環境	基礎		展開		
6～10	0～4	0～4	1	1	0～2	1	1	1	1	1	5～9	2	1			
8～12			2～4			12～16					104 単位 (選択必修科目 24 単位を含む)					
26 単位																

※1 英語が母国語の人は、英語以外の外国語から履修すること。

※2 初修外国語は、複数の外国語にまたがって履修してよい。

(専門教育科目の卒業に必要な単位数)

(一般学生用, 外国人留学生用)

	必修科目	選択必修科目	計	合計
専門基礎科目	23	24～	24～	104
専門科目	56		76～	

2. 3年次への進級について（進級ゲート）

下記条件を満たしていない場合、2年次から3年次に進級できない。

「卒業に必要な単位数」のうち62単位以上

普遍教育科目：20単位以上

専門基礎科目：必修科目10単位以上

専門科目：必修科目12単位以上

その他：工学基礎セミナー及び工学入門の必修科目を修得していること。

なお、合計単位数62単位をぎりぎりで通過した場合、あと2年間で卒業することは不可能ではないが、相当な困難を伴う。

3. 卒業研究の履修条件

下記条件を満たしていない場合、卒業研究を履修することができない。

「卒業に必要な単位数」のうち115単位以上

普遍教育科目：26単位（卒業に必要な単位数と同一）

専門教育科目：89単位以上

専門基礎科目：必修科目23単位

専門科目：必修科目46単位以上

専門基礎科目および専門科目：選択必修科目20単位以上

その他：実験、実習、製図および工学英語の単位はすべて修得済みであること。

4. 履修上の注意

(1) 普遍教育科目履修に関する注意事項 (ア) 別途案内（掲示等）によりクラス分け指定がある科目は、これに従い履修登録すること。 (イ) 教養コア科目および専門基礎科目は指定科目を指定クラスで受講すること。それ以外で受講しても、その単位は「卒業に必要な単位数」には算入されない。	
(2) 他学部開講の専門基礎科目	履修はできるが「卒業に必要な単位数」には算入されない。
(3) 他コースの卒業要件科目である専門基礎科目	
(4) 他学部開講の専門科目	
(5) 他コース開講の専門科目	専門科目の選択科目として受講できるが、「卒業に必要な単位数」に算入できるのは6単位までとする。ただし、履修登録時に担任あるいは教育委員経由で機械工学コースの承認を受ける必要がある。
(6) 千葉工業大学の指定科目	なお、千葉工業大学の指定科目は年度始めに別途掲示する。
(7) 卒業要件科目は推奨されている年次に履修すること。	
(8) 原則として在籍している学年より上位の学年を対象として開講されている科目を履修することはできない。	

5. 「卒業に必要な単位数」に算入されない教養展開科目について

以下の教養展開科目は、内容が専門教育科目と重複するため「卒業に必要な単位」として認めない。なお、普遍教育科目の変更などによって追加される科目が生じることもあるので注意すること。追加・修正等については年度初めのガイダンスで指示する。

「物理学の世界」, 「物理学入門 (展開)」, 「物理学入門 1, 2 (展開)」, 「実験で体験する物理」, 「実験で体験する物理 A, B」

6. 年間の履修登録単位数の上限について

前年度の GPA が 2.50 を超える場合、教育委員および各年次学年担任の了解のもと、56 単位までの履修登録を認める。

7. その他

- (1) 履修する科目、単位の修得、卒業に関しては、この履修課程に記載された内容にしたがって行われる。熟読すると同時に、卒業まで大切に所持しておくこと。
- (2) 本冊子に示してある履修課程は、教科内容の充実にともなって一部改定されることもあるので、年度始めのガイダンスにはこの冊子を持参して必ず出席し、その指示に従うこと。

⑤ 医工学コース (Department of Medical Engineering)

○ 教育理念・教育目標

過去に前例のないレベルの少子高齢社会を迎えた我が国では、予防・診断・治療・機能回復・健康増進など、医療や福祉にかかわる科学技術の役割が極めて大きくなっている。医工連携、すなわち医療に関する広範な知識・実践力を有する工学技術者と科学技術に精通した医師・看護師・薬剤師との協働に基づく、新しい医療の実現は社会的急務と言えるだろう。また、21世紀に入り、物質的な豊かさから心の豊かさを求める社会へ転換が求められるようになった。そのような社会の創成のためには、何より質の高い心身の健康が不可欠となる。加えて、医療・福祉・健康産業は急速な成長が見込まれる高付加価値産業であり、次世代における我が国の産業の中核となることが期待されている。

医工学コースでは、フロンティア医工学センターや医学部、工学部の他コースと協力し、学際領域である生体医工学や生命科学分野の要請に応える研究者・技術者を育成している。工学分野の中でも電気電子工学、情報画像工学、機械工学の教育と研究開発に重点を置き、それらの基礎的学力と医学分野の基礎知識、さらには幅広い視野、柔軟な価値観、国際性を併せ持った人材を輩出している。

○ 教育プログラムの特色

1. 専門性と学際性を両立したカリキュラム

医工学は電子・情報・画像・機械工学等の工学技術が横断的に必要とされる学際的領域である。当コースでは、「電子」「情報」「機械」の3つの系を教育の柱として、それぞれの系における基礎的科目を必修としている。その上で、各系における高度な専門性を効率的に身につけられるように、選択必修科目中に各系の重点科目を設定している。学生は、自分が修得したい専門分野(系)をひとつあるいは複数選択し、その系の重点科目を含めた履修計画をたてることが強く推奨される。特に、学部教育の集大成である卒業研究を実り多いものにするために、各研究室が配属学生に期待する系重点科目を履修しておくことが望ましい。

2. 実践指向のプログラム

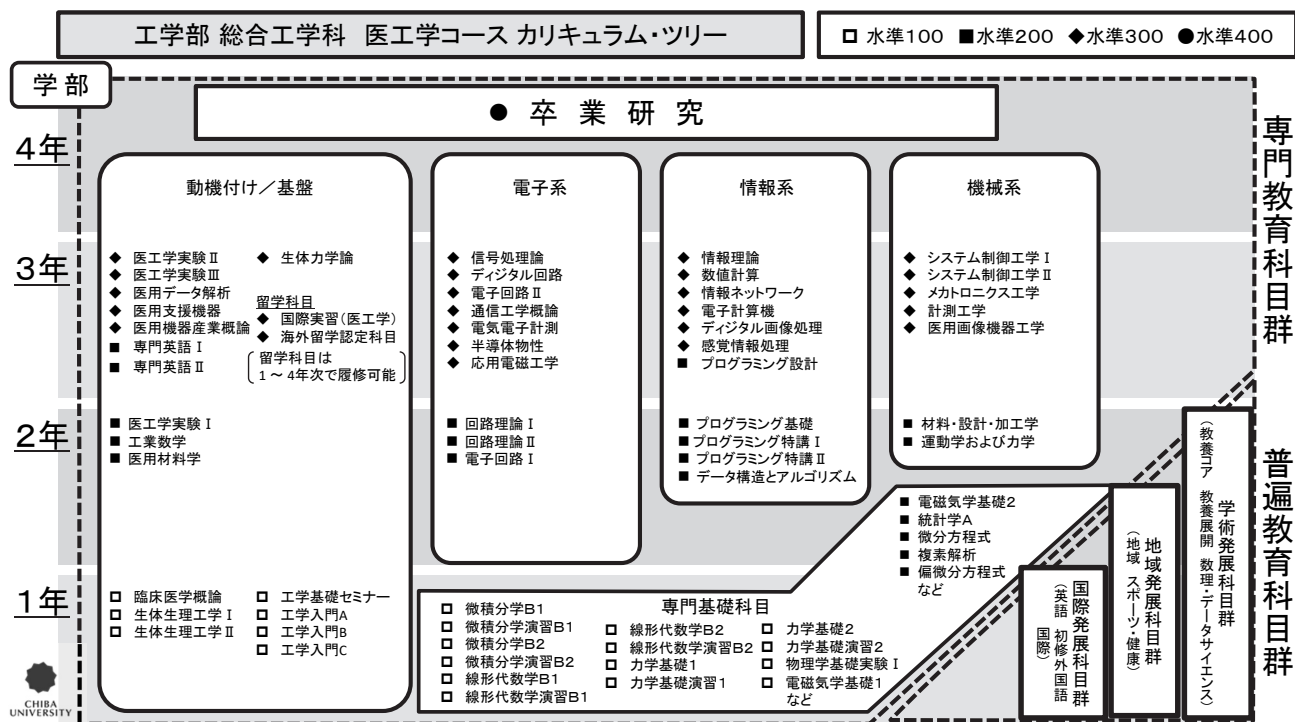
2年次から3年次にかけて行われる医工学実験 I, II, および III では、医工学分野に必須の電子・情報・機械技術の基礎を習得する。特に医工学実験 III では、学生は各研究室に配属され、最先端の医工学研究の一端を体験することができる。また、3年次には、医学部・薬学部・看護学部と合同で開講される玄鼻 IPE (Interprofessional education, 専門職連携教育) プログラムにおいて、医療に不可欠な複数の専門職との連携を実践的に学ぶことができる。

3. 遍学単位制度

医工学は学際的な学問であり、広い分野の知識・技術が求められている。そのため、本コースの教育プログラムでは、工学部の他コースはもとより、医学部・看護学部・薬学部・理学部・教育学部・文学部・園芸学部などの他学部の一部の講義を履修可能としている。総合大学としての千葉大学の利点を活用し、広範な教育・研究組織と連携して、幅広い視野に立つ医療工学技術者の育成を図っている。

医工学コース カリキュラムツリー

低学年では基礎科目を重点的に学び、進級と共に専門科目に移行する。工学入門A，生体生理工学，臨床医学概論といった医工学を学ぶ動機付けとなる科目を1年次に設定し，積極的な勉学を促す。2年次後半と3年次の1年半に渡って医工学実験が設定されており，医工学に関する実習を幅広く実施する。4年次の卒業研究に専念できるようにするため，早い段階で卒業要件科目を修得することが好ましい。



1. 卒業に必要な単位数

(一般学生用)

普通教育科目												専門教育科目		卒業単位数		
国際発展科目群			地域発展科目群			学術発展科目群						専門基礎科目	専門科目			
英語科目	初修外国語科目※1	国際科目		健康科目 スポーツ・	地域科目		教養コア科目			教養展開科目	サイエンス科目 数理・データ					
		基礎	展開		基礎	展開	論理	生命	文化		環境	基礎	展開			
6~10	0~4	1	1	0~2	1	1	1	1	1	1	5~9	2	1	29~	66~	130 単位
8~12			2~4			12~16						29~	66~			
26 単位												104 単位				

※1 初修外国語は、複数の外国語にまたがって履修してよい。

(外国人留学生用)

普通教育科目												専門教育科目		卒業単位数			
国際発展科目群			地域発展科目群			学術発展科目群						専門基礎科目	専門科目				
英語科目※1	日本語科目	初修外国語科目※2	国際科目		健康科目 スポーツ・	地域科目		教養コア科目			教養展開科目				サイエンス科目 数理・データ		
			基礎	展開		基礎	展開	論理	生命	文化		環境	基礎		展開		
6~10	0~4	0~4	1	1	0~2	1	1	1	1	1	1	5~9	2	1	29~	66~	130 単位
8~12			2~4			12~16						29~	66~				
26 単位												104 単位					

※1 英語が母国語の人は、英語以外の外国語から履修すること。

※2 初修外国語は、複数の外国語にまたがって履修してよい。

(専門教育科目の卒業に必要な単位数)

(一般学生用, 外国人留学生用)

専門教育科目					
専門基礎科目		専門科目			
必修	選択必修	必修	選択必修	選択	
29	0~	45	コース内	遍学 (他学部)	遍学 (他コース)
			21~	0~	0~
			21~		
29~		66~			

2. 3年次への進級について（進級ゲート）

下記条件を満たしていない場合、2年次から3年次に進級できず、13ターム以降に開講されるすべての科目を履修することができない。

「卒業に必要な単位数」のうち62単位以上

3. 卒業研究履修の条件

「卒業に必要な単位数」のうち107単位以上

普遍教育科目：22単位以上

専門基礎科目：必修科目29単位

専門科目：必修科目31単位以上を含めて56単位以上

その他：必修の実験、実習の単位をすべて修得していること

普遍教育科目	専門教育科目	
	専門基礎科目	専門科目
22単位以上	必修29単位	56単位以上 (必修31単位以上を含む)

4. 履修上の注意

(1) 普遍教育科目履修に関する注意事項	
(ア) 別途案内（掲示等）によりクラス分け指定がある科目は、これに従い履修登録すること。	
(イ) 教養コア科目および専門基礎科目は指定科目を指定クラスで受講すること。それ以外で受講しても、その単位は「卒業に必要な単位数」には算入されない。	
(2) 他学部開講の専門基礎科目	指定された科目以外は、履修はできるが「卒業に必要な単位数」には算入されない。
(3) 他コースの卒業要件科目である専門基礎科目	
(4) 他学部開講の専門科目	
(5) 他コース開講の専門科目	
(6) 千葉工業大学の指定科目	専門科目の選択科目として受講できる。ただし、履修登録時に担任あるいは教育委員経由で医工学コースの承認を受ける必要がある。なお、千葉工業大学の指定科目は年度始めに別途提示する。
(7) 卒業要件科目は推奨されている年次に履修すること。	
(8) 遍学プログラム科目については、各学部学科等の事情により変更されることがある。開講状況は、履修年度毎に確認を要する。対応科目や単位数についても入学年度のものとは変わっている場合もあるため、年度始めのガイダンスで確認すること。また、履修希望者が多数の場合には全員の履修が認められないこともある。その点も考慮の上履修計画を立てること。履修科目は、担任と十分に相談した上で決めること。	

5. 卒業に必要な単位数に算入されない教養展開科目について

(ア) 以下の教養展開科目は、内容が専門教育科目と重複するため「卒業に必要な単位」として認めない。なお、普遍教育科目の変更などによって追加される科目が生じることもあるので注意すること。追加・修正等については年度初めのガイダンスで指示する。

「物理学の世界」、 「物理学入門（展開）」、 「物理学入門1， 2（展開）」、

「生物学基礎実験A， E， F， G（展開）」、 「化学基礎実験（展開）」、 「実験で体験する物理」、

「実験で体験する物理A， B」

(イ) 実験の授業科目は、「卒業に必要な単位」として算入されない。

6. その他

(1) 履修する科目、単位の修得、卒業に関しては、この履修課程に記載された内容にしたがって行われる。熟読すると同時に、卒業まで大切に所持しておくこと。

(2) 本冊子に示してある履修課程は、教科内容の充実にもなって一部改訂されることがあるので、年度始めのガイダンスにはこの冊子を持参して必ず出席し、指示に従うこと。

(3) 履修登録の際には、必ずP6「13.履修登録について」の記載を確認して行うこと。

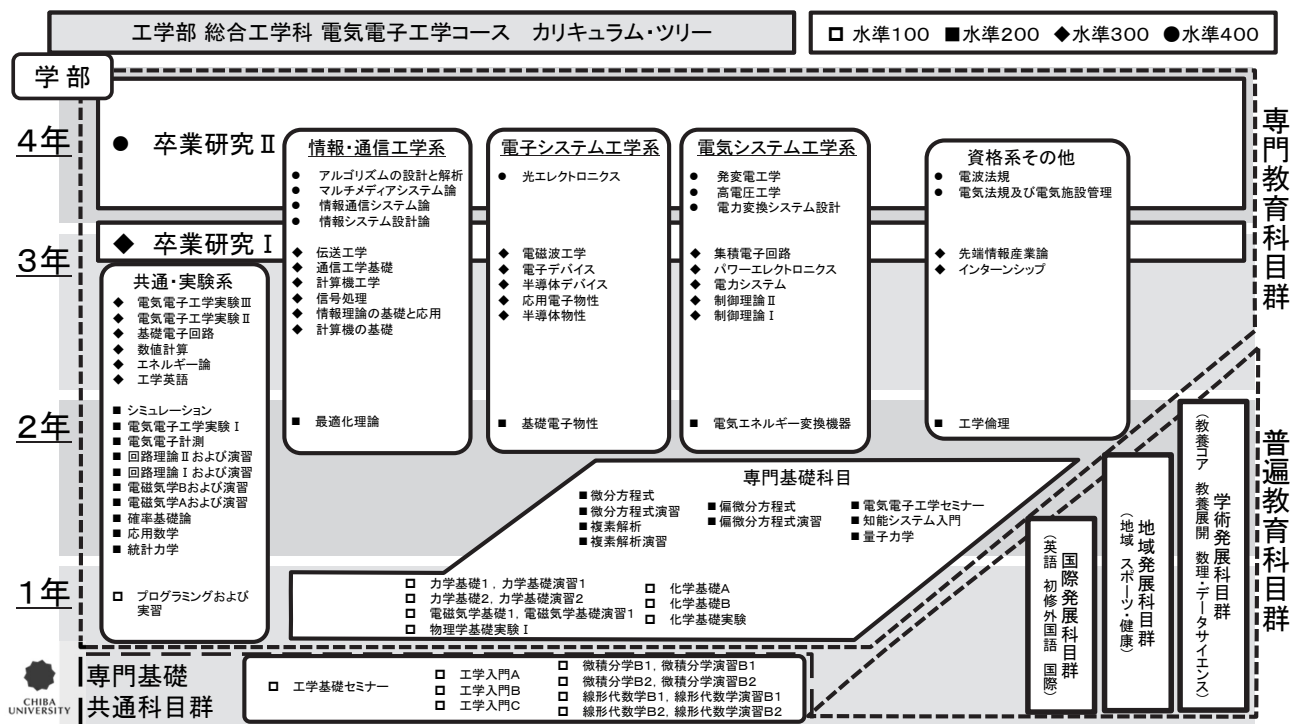
⑥ 電気電子工学コース (Department of Electrical and Electronic Engineering)

○ コース理念

電気電子工学は 20 世紀後半から急速な発展を遂げ、その勢いは今世紀になっても止まることはなく次々と新しい知見や新技術を創生・開発し続けている。これらの成果は、電気機器、情報通信、電気・ガス、精密機械、運輸、輸送機器、化学プラント、医療機器、公共システムなど、あらゆる工学分野に深く浸透し、最重要基盤技術として社会や産業を支えている。現代社会は電気・電子工学の体系に基づいた技術によって支えられていると言っても過言ではない。

本コースでは、このような実社会において活躍できるための電気電子工学に関する基礎的学問体系を身につけるとともに、電気電子工学の専門性に立脚して他の分野や工学以外の異なるバックグラウンドの人達とも協調して新しい技術を創造できる学際的な素養を持った高度技術者・研究者を育成する。

教育体系としては、電気電子工学の基礎となる電磁気学、回路理論を出発点として、電気電子基礎分野、情報通信・電力を含む電子システム分野、誘電体（絶縁材料を含む）、磁性体および半導体等の電子材料そのものや、それらを応用する物性デバイスの学問領域を履修できる教育プログラムを構成している。具体的には、基礎科目（英語、数学、物理）、専門科目（電磁気、回路、システム制御、情報通信、物性デバイス）、コース科目（セミナー、倫理、実験、卒業研究）から構成される。



科目区分	授業科目	ナンバリング	単位数	必修選択別	週当たりの授業時間数																備考								
					1年次				2年次				3年次				4年次												
					T1	T2	T4	T5	T7	T8	T10	T11	T13	T14	T16	T17	T19	T20	T22	T23									
専門基礎科目	工学基礎セミナー	TX120	2	◎	2	2																							
	工学入門A (自コース)	TX108	1	◎		2																							
	工学入門B(他コース1[自系])	TX109	1	◎			2																						
	工学入門C (他コース2)	TX110	1	○			2																						
	微積分学B 1	CM102	2	◎	2	2																							
	微積分学演習B 1	CM104	1	◎	1	1																							
	微積分学B 2	CM103	2	◎			2	2																					
	微積分学演習B 2	CM105	1	◎			1	1																					
	線形代数学B 1	CM107	2	◎	2	2																							
	線形代数学演習B 1	CM109	1	◎	1	1																							
	線形代数学B 2	CM108	2	◎			2	2																					
	線形代数学演習B 2	CM110	1	◎			1	1																					
	微分方程式	CM203	2	◎					2	2																			
	微分方程式演習	TE211	2	◎					2	2																			
	複素解析	CM202	2	○					2	2																			
	複素解析演習	TE212	2	○					2	2																			
	偏微分方程式	CM204	2	○							2	2																	
	偏微分方程式演習	TE213	2	○							2	2																	
	力学基礎 1	CP103	2	◎	2	2																							
	力学基礎演習 1	CP108	1	◎	1	1																							
	力学基礎 2	CP104	2	◎			2	2																					
	力学基礎演習 2	CP109	1	◎			1	1																					
	電磁気学基礎 1	CP106	2	◎			2	2																					
	電磁気学基礎演習 1	CP111	1	◎			1	1																					
	物理学基礎実験 I	CP112	1	◎			(2)	(2)																					
	量子力学	TE214	2	○							2	2																	
化学基礎A	TX111	2	○	2	2																								
化学基礎B	TX112	2	○			2	2																						
化学基礎実験	CC106	1	○			(2)	(2)																						
総合工学プロジェクト	TX310	2																										通期集中	
電気電子工学セミナー	TE215	2	◎					2	2																				
知能システム入門	TX203	2	○					2	2																				
専門科目	プログラミングおよび実習	TE131	3	○			(4)	(4)																					
	電磁気学Aおよび演習	TE221	3	◎					3	3																			
	電磁気学Bおよび演習	TE222	4	◎							(4)	(4)																	
	統計力学	TE215	2	○					2	2																			
	回路理論 I および演習	TE223	4	◎					(4)	(4)																			
	回路理論 II および演習	TE224	4	◎							(4)	(4)																	
	応用数学	TE216	2	◎							2	2																	
	確率基礎論	TE217	2	○					2	2																			
	数値計算	TE321	2	○									2	2															
	電気電子計測	TE225	2	○							2	2																	
	電気電子工学実験 I	TE231	2	◎							(4)	(4)																	
	電気電子工学実験 II	TE331	3	◎											(6)	(6)													
	電気電子工学実験 III	TE332	3	◎													(6)	(6)											
	工学英語	TX303	2	◎									2	2														注5	
	インターンシップ	TE391	2														(60)												
	制御理論 I	TE361	2	◎									2	2															
	制御理論 II	TE362	2	○															2	2									
最適化理論	TE271	2	○							2	2																		
電力システム	TE363	2	○									2	2																

科目区分	授業科目	ナンバリング	単位数	必修選択別	週当たりの授業時間数																備考					
					1年次				2年次				3年次				4年次									
					T1	T2	T4	T5	T7	T8	T10	T11	T13	T14	T16	T17	T19	T20	T22	T23						
専門科目	電気エネルギー変換機器	TE261	2	○						2	2															
	パワーエレクトロニクス	TE364	2	○												2	2									
	電力変換システム設計	TE461	2	○										2	2				2	2						注4
	基礎電子回路	TE328	2	◎										2	2											
	集積電子回路	TE341	2	○												2	2									
	電磁波工学	TE342	2	○											2	2										
	伝送工学	TE343	2	○												2	2									
	基礎電子物性	TE251	2	◎							2	2														
	シミュレーション	TE232	2	○							(4)	(4)														
	半導体物性	TE351	2	○										2	2											
	応用電子物性	TE352	2	○													2	2								
	半導体デバイス	TE353	2	○													2	2								
	電子デバイス	TE354	2	○													2	2								
	光エレクトロニクス	TE451	2	○											2	2				2	2					注4
	計算機の基礎	TE371	2	◎											2	2										
	情報理論の基礎と応用	TE372	2	○												2	2									
	信号処理	TE373	2	○													2	2								
	計算機工学	TE374	2	○													2	2								
	通信工学基礎	TE376	2	○											2	2										
	国際実習	TX320	2																							(60)
	海外留学認定科目Ⅰ	TX321	2																							30
	海外留学認定科目Ⅱ	TX322	2																							30
	海外留学認定科目Ⅲ	TX323	2																							30
	情報システム設計論	TE471	2														2	2					2	2		注4
	情報通信システム論	TE472	2													2	2					2	2			
	先端情報産業論	TE392	2														2	2					2	2		
高電圧工学	TE462	2												2	2					2	2					
発電工学	TE463	2														2	2					2	2			
エネルギー論	TE324	2												2	2					2	2					
電気法規及び電気施設管理	TE492	2													2	2					2	2				
電波法規	TE493	2														2	2					2	2			
マルチメディアシステム論	TE473	2													2	2					2	2				
アルゴリズムの設計と解析	TE474	2													2	2					2	2				
工学倫理	TX201	1														1						1		工学部共通科目		
卒業研究Ⅰ	TE322	2	◎																					(60)		
卒業研究Ⅱ	TE421	6	◎																					(180)		

注1. 集中講義については、週当たりの授業時間数ではなく、総時間数を記載している。

注2. ◎は「必修科目」、○は「選択必修科目」、無印は「選択科目」をそれぞれ示す。

注3. 実験・実習の授業時間数は（ ）で示す。また、これらの科目は、必要に応じて指定された時間以上授業を行う。

注4. 4年次開講の「選択必修科目」、「選択科目」は、履修単位上限等の他の規則に抵触しない場合は、3年次でも履修が認められる。

注5. e-learning主体の講義。

1. 卒業に必要な単位数

(一般学生用)

普 遍 教 育 科 目											専 門 教 育 科 目		卒業単位数		
国際発展科目群			地域発展科目群			学術発展科目群					専門基礎科目	専門科目			
英語科目	初修外国語科目※1	国際科目		健康科目 スポーツ・ 地域科目	地域科目	教養コア科目			教養展開科目	数理・データ サイエンス科目					
		基礎	展開			論理	生命	文化		環境	基礎	展開			
6~10	0~4	1	1	0~2	1	1	1	1	1	5~9	2	1	37	67	130 単位
8~12			2~4			12~16					104 単位				
26 単位											104 単位				

※1 初修外国語は、複数の外国語にまたがって履修してよい。

(外国人留学生用)

普 遍 教 育 科 目											専 門 教 育 科 目		卒業単位数			
国際発展科目群			地域発展科目群			学術発展科目群					専門基礎科目	専門科目				
英語科目※1	日本語科目	初修外国語科目※2		国際科目	健康科目 スポーツ・ 地域科目	地域科目	教養コア科目			教養展開科目				数理・データ サイエンス科目		
		基礎	展開				論理	生命	文化		環境	基礎	展開			
6~10	0~4	0~4	1	1	0~2	1	1	1	1	1	5~9	2	1	37	67	130 単位
8~12			2~4			12~16					104 単位					
26 単位											104 単位					

※1 英語が母国語の人は、英語以外の外国語から履修すること。

※2 初修外国語は、複数の外国語にまたがって履修してよい。

(専門教育科目の卒業に必要な単位数)

(一般学生用, 外国人留学生用)

	必修科目	選択必修科目	合計
専門基礎科目	32	5	37
専門科目	43	24	67

2. 3年次への進級について (進級ゲート)

下記条件を満たしていない場合、2年次から3年次に進級できない。

「卒業に必要な単位数」のうち62単位以上

3. 卒業研究履修の条件

3-1. 卒業研究 I 履修の条件

【一般学生用, 外国人留学生用】

「卒業に必要な単位数」のうち 89 単位以上

専門基礎科目および専門科目：必修科目 56 単位以上

そ の 他：「電気電子工学セミナー」および「電気電子工学実験 I, II」を修得していること。

(上記必修科目 56 単位に含む)

【編入学生用】

「卒業に必要な単位数」のうち 89 単位以上

そ の 他：「電気電子工学セミナー」および「電気電子工学実験 I, II」を修得していること。

3-2. 卒業研究 II 履修の条件

「卒業に必要な単位数」のうち 104 単位以上

専門基礎科目および専門科目：必修科目 65 単位以上

専門基礎科目：選択必修科目 5 単位以上

専 門 科 目：選択必修科目 8 単位以上

そ の 他：「卒業研究 I」および「電気電子工学実験 III」を修得していること。

(上記必修科目 65 単位に含む)

4. 履修上の注意

(1) 普遍教育科目履修に関する注意事項	
(ア) 別途案内 (掲示等) によりクラス分け指定がある科目は、これに従い履修登録すること。	
(イ) 教養コア科目および専門基礎科目は指定科目を指定クラスで受講すること。それ以外で受講しても、その単位は「卒業に必要な単位数」には算入されない。	
(2) 他学部開講の専門基礎科目	履修はできるが「卒業に必要な単位数」には算入されない。履修登録時に、担任あるいは教育委員経由で電気電子工学コースの承認を受ける必要がある。
(3) 他コースの卒業要件科目である専門基礎科目	
(4) 他学部開講の専門科目	
(5) 他コース開講の専門科目	専門科目の選択科目として受講できる。ただし、履修登録時に担任あるいは教育委員経由で電気電子工学コースの承認を受ける必要がある。なお、千葉工業大学の指定科目は年度始めに別途掲示する。
(6) 千葉工業大学の指定科目	
(7) 卒業要件科目は推奨されている年次に履修すること。	

5. 卒業に必要な単位数に算入されない教養展開科目について

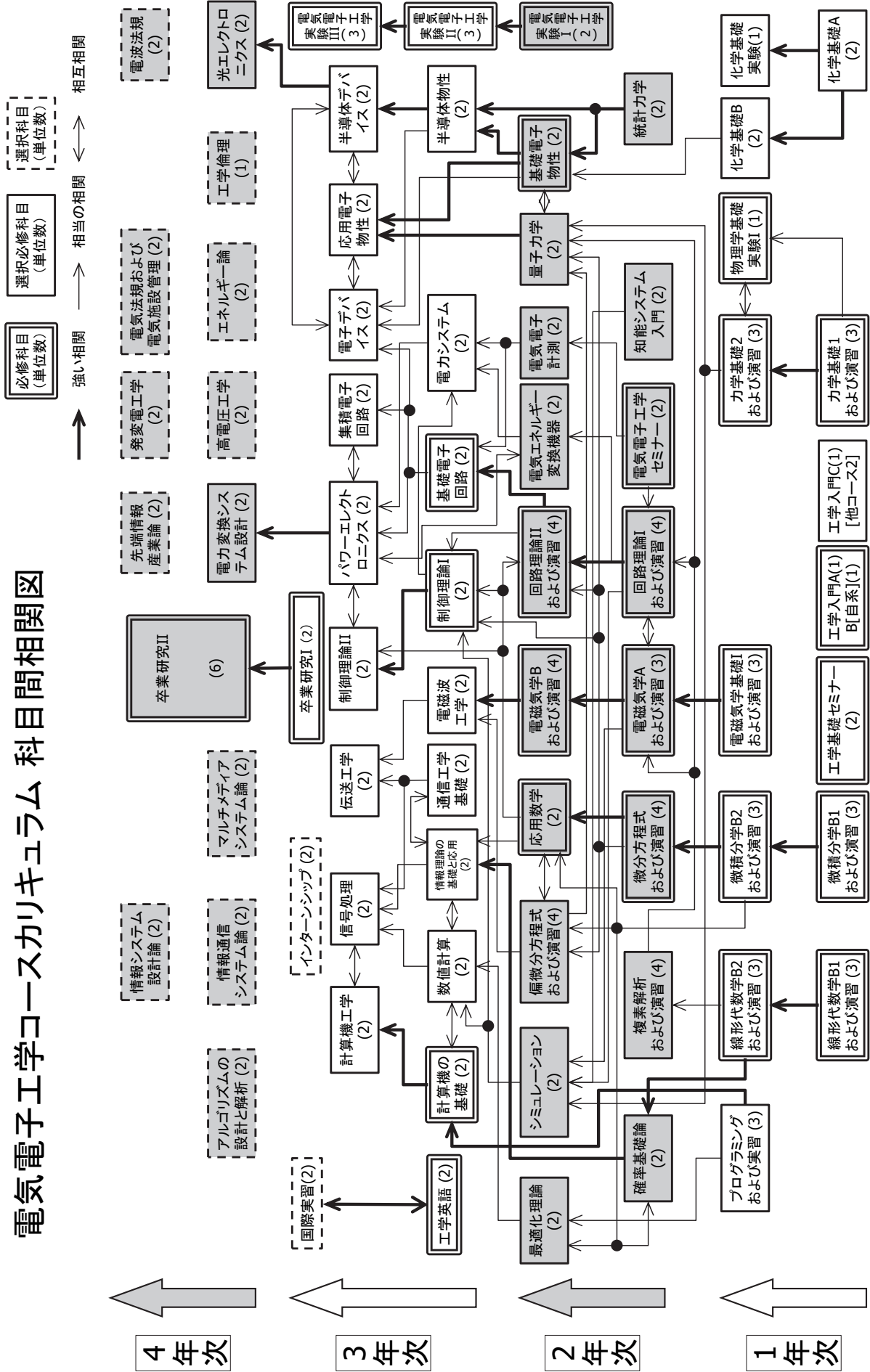
以下の教養展開科目は、内容が専門教育科目と重複するため「卒業に必要な単位」として認めない。なお、普遍教育科目の変更などによって追加される科目が生じることもあるので注意すること。追加・修正等については年度初めのガイダンスで指示する。

「物理学の世界」, 「物理学入門 (展開)」, 「物理学入門 1, 2 (展開)」, 「実験で体験する物理」,
「実験で体験する物理A, B」

6. その他

- (1) 履修する科目, 単位の修得, 卒業に関しては, この履修課程に記載された内容にしたがって行われる。熟読すると同時に, 卒業まで大切に所持しておくこと。
- (2) 本冊子に示してある履修課程は, 教科内容の充実にもなって一部改訂されることがあるので, 年度始めのガイダンスにはこの冊子を持参して必ず出席し, 指示に従うこと。

電気電子工学コースカリキュラム 科目間相関図



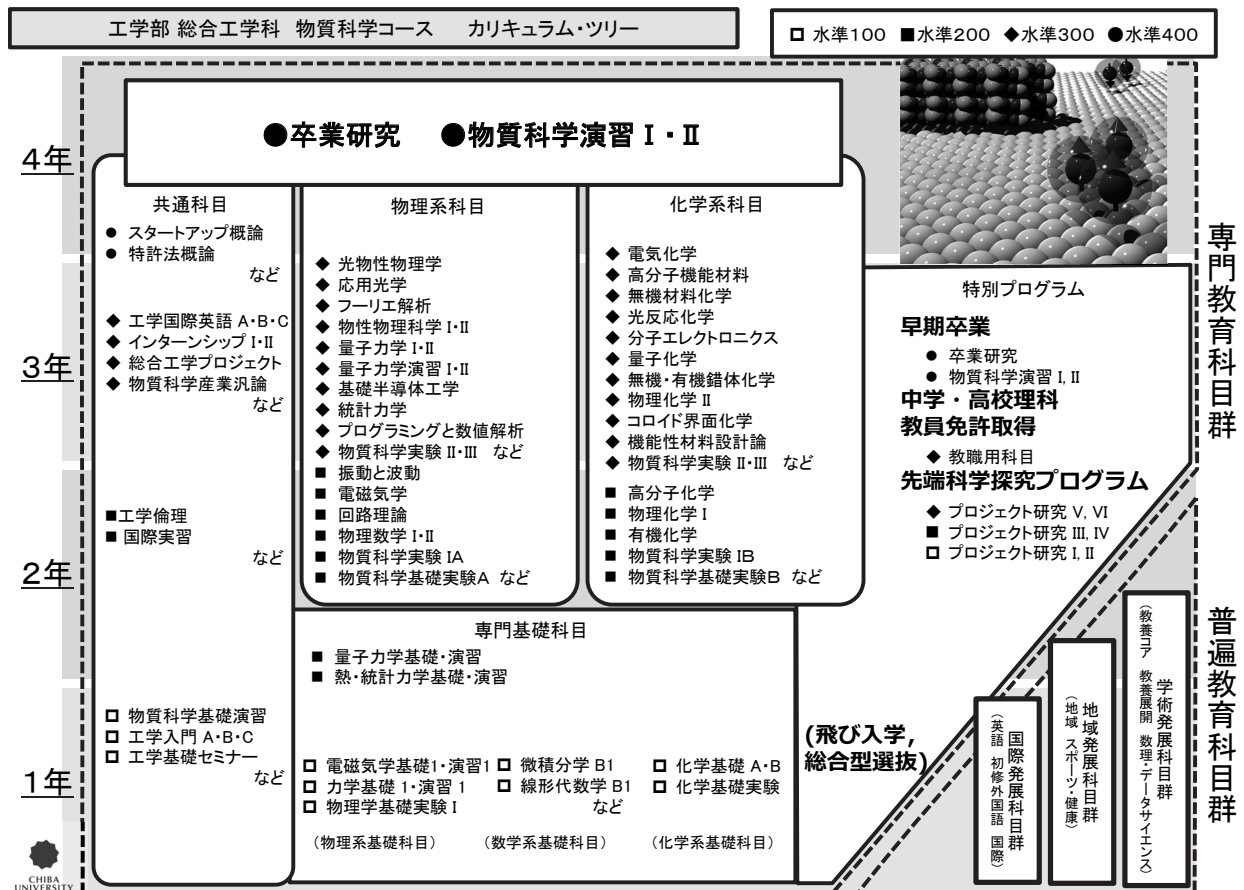
⑦ 物質科学コース (Department of Materials Science)

○ 教育理念・目標

材料に関わる物理や化学，ナノサイエンス，デバイス工学，画像科学を軸として，物質科学とその応用分野について学び，高度情報化社会の基盤を支える物質科学に関わる多様な領域で活躍する人材を育成します。工学の数多くのイノベーションの成果は，何らかの物質・材料を介して目に見える形へと実現されていきます。バーチャルな世界もそれを実際に見せているのは，何らかの物質です。イノベーションの成果を最大限に発揮させるためには，その内容を把握した上で，色々な物質の持つ特性の理解のもとに，具体的な形に上げることが不可欠です。本コースでは，物理や化学に深い根っこを持ち，材料物性，デバイス，画像科学などの分野全体を俯瞰できるT字型人間の育成を目指します。

○ カリキュラムの特徴

物質科学コースでは，物質科学の根幹となる物理と化学を中心に学ぶことができます。1～2年次に数学・物理・化学などの専門基礎科目や工学入門などの工学に共通した科目を学びます。2年次の後期からは，「物理に重きをおいて学ぶサブコース」と「化学に重きをおいて学ぶサブコース」にわかれて，さらに専門性の高い科目を学んでいきます。どちらのサブコースであっても，物理と化学の両方をしっかりと学び，デバイス工学や画像科学をはじめとした物質科学の応用分野へと展開して行きます。このように分野の壁を超えて学ぶことで広い価値観を養うことができ，代表的な異分野融合分野である物質科学分野で活躍できる人材を育てるカリキュラムとなっています。また，早期卒業，中学・高校理科教職免許取得，先端科学探究プログラムといった特別プログラムが用意されていることも特色の一つとなっています。



科目区分	授 業 科 目	ナンバリング	単 位 数	必修 選択 別	週当たりの授業時間数																備 考
					1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				
					T 1	T 2	T 4	T 5	T 7	T 8	T 10	T 11	T 13	T 14	T 16	T 17	T 19	T 20	T 22	T 23	
専門 科目	海外留学認定科目Ⅰ	TX321	2		30																留学科目
	海外留学認定科目Ⅱ	TX322	2		30																留学科目
	海外留学認定科目Ⅲ	TX323	2		30																留学科目
	工学倫理	TX201	1							2				2			2	工学部共通科目			

注1. 集中講義については、週当たりの授業時間数ではなく、総時間数を記載している。

注2. ◎印は必修科目，○印は選択必修科目，無印は選択科目を示す。

注3. 実験，実習，インターンシップの授業時間数は（ ）で示す。

注4. インターンシップⅠ，Ⅱは期間や内容によりどちらか一方を選択，開始前に担任と相談のこと。

注5. 原則として先端科学探究プログラムの学生のみ受講可（先端科学探究プログラムについては後述12項を参照）。

注6. 工学国際英語AまたはBのいずれかを必修とする。必修科目に選ばなかった方を選択科目として履修できる。

注7. スタートアップ概論AおよびBは同一の授業内容のため、どちらか一方を選択して受講のこと。

1. 卒業に必要な単位数

(一般学生用)

普通教育科目												専門教育科目		卒業単位数		
国際発展科目群			地域発展科目群			学術発展科目群						専門基礎科目	専門科目			
英語科目	初修外国語科目※1	国際科目		スポーツ・健康科目	地域科目		教養コア科目			教養展開科目	数理・データサイエンス科目					
		基礎	展開		基礎	展開	論理	生命	文化		環境	基礎	展開			
6~10	0~4	1	1	0~2	1	1	1	1	1	1	5~9	2	1	41	63	130 単位
8~12			2~4			12~16						104 単位				
26 単位												104 単位				

※1 初修外国語は、複数の外国語にまたがって履修してよい。

(外国人学生用)

普通教育科目												専門教育科目		卒業単位数		
国際発展科目群			地域発展科目群			学術発展科目群						専門基礎科目	専門科目			
英語科目※1	日本語科目	初修外国語科目※2	国際科目		スポーツ・健康科目	地域科目		教養コア科目			教養展開科目				数理・データサイエンス科目	
			基礎	展開		基礎	展開	論理	生命	文化		環境	基礎		展開	
6~10	0~4	0~4	1	1	0~2	1	1	1	1	1	5~9	2	1	41	63	130 単位
8~12			2~4			12~16						104 単位				
26 単位												104 単位				

※1 英語が母国語の人は、英語以外の外国語から履修すること。

※2 初修外国語は、複数の外国語にまたがって履修してよい。

専門教育科目の内訳

	選択必修の別	記号	開講科目数	開講単位数	履修しなければならない単位数	
専門基礎科目	必修	◎	28	41	41	41
	選択必修	○	0	0	0	
	選択	(無印)	10	15	0	
専門科目	必修	◎	13	30	28	63
	選択必修	○	17	34	22~32	
	選択	(無印)	36	62	3~13	
計			104	182	104	

2. 3年次への進級について（進級ゲート）

下記条件を満たしていない場合、2年次から3年次に進級できず、「物質科学実験Ⅱ」の履修ができない。

- (1) 「卒業に必要な単位数」のうち62単位以上
- (2) 専門基礎科目：必修科目25単位以上
- (3) 物質科学基礎実験AとB，及び物質科学実験ⅠAとⅠBを修得していること。

3. 卒業研究の履修条件

- (1) 「卒業に必要な単位数」を108単位以上修得していること。
- (2) 物質科学実験Ⅱ及びⅢの単位を修得していること。

4. 履修上の注意

(1) 普遍教育科目履修に関する注意事項	
(ア) 別途案内（掲示等）によりクラス分け指定がある科目は、これに従い履修登録すること。	
(イ) 教養コア科目および専門基礎科目は指定科目を指定クラスで受講すること。それ以外で受講しても、その単位は「卒業に必要な単位数」には算入されない。	
(2) 他学部開講の専門基礎科目	うち指定した科目を専門科目の選択科目として履修できるが、「卒業に必要な単位数」として算入できるのは(5)(6)と合わせて8単位までとする。指定科目は年度初めのガイダンスで指示する。
(3) 他コースの卒業要件科目である専門基礎科目	
(4) 他学部開講の専門科目	履修はできるが「卒業に必要な単位数」には算入されない。
(5) 他コース開講の専門科目	うち指定した科目を専門科目の選択科目として履修できるが、「卒業に必要な単位数」として算入できるのは(2)(3)と合わせて8単位までとする。指定科目は年度初めのガイダンスで指示する。
(6) 千葉工業大学の指定科目	
(7) 卒業に必要な科目は推奨されている年次に履修すること。	

5. 卒業に必要な単位数に算入されない教養展開科目について

以下の教養展開科目は、内容が専門教育科目と重複するため「卒業に必要な単位」として認めない。なお、普遍教育科目の変更などによって追加される科目が生じることもあるので注意すること。追加・修正等については年度初めのガイダンスで指示する。

「物理学の世界」，「物理学入門（展開）」，「物理学入門1，2（展開）」，
「実験で体験する物理」，「実験で体験する物理A，B」，「化学（展開）」，
「物理化学A，B（展開）」，「化学基礎実験（展開）」，「生物学基礎実験A，E，F，G（展開）」

6. 研究室配属について

- (1) 卒業研究の履修開始時まで、コース内のいずれかひとつの研究室に配属する。
- (2) 配属先は、原則として学生の希望を優先するが、希望者が偏った場合はそれまでの成

績や話し合いにより調整する。

7. 年間の履修登録単位数の上限について

- (1) 各年次の履修登録単位数の上限は、次のとおりとする。

年次	1	2	3	4
上限	50	45	34	34

- (2) 資格取得のための科目履修や編入学学生および転部した学生については、状況に応じて柔軟に対応できているので、学年担任に相談すること。
- (3) 工学国際英語A, 工学国際英語B, および集中講義はこの規定から除外する。
- (4) 「不可」と評価された科目の再履修に関しては、原則として年間12単位まで登録単位数上限の計算から除外する。
- (5) 次項で規定する「成績優秀者」として認定を受けた者は、1回の認定につき最大6単位まで上限を超えて履修登録することができる。
- (6) 次々項で規定する「早期卒業」に関する条件(1)～(4)を満たした者の3年次の履修登録単位数上限は、個々の学生ごとに指定する。
- (7) 「早期卒業」の対象外の学生については、3年次に追加登録を認める場合がある。この場合の履修登録単位数上限は、個々の学生ごとに指定する。

8. 成績優秀者について

以下の条件を満たした者を「成績優秀者」として認定し、第7ターム、第10タームおよび第13タームの開始時まで公表する。

- (1) 卒業に必要な科目を1年次に45単位またはそれ以上、または2年次の前期および2年次の後期に22単位またはそれ以上履修登録し、履修推奨タームより早く履修した科目を除き、履修登録した「卒業に必要な単位数」に含まれる科目をすべて修得した者。
- (2) 1年次終了時点でのGPA, または履修推奨タームより早く履修した科目を除いた2年次前期または2年次後期のみのGPAが3.00以上である者。

9. 早期卒業について

物質科学コースに3年以上在籍し、次の(1)～(7)の条件を満たすものは4年未満の在学で卒業することが可能である。

- (1) 2年次終了時まで成績優秀者として一度以上認定されていること。
- (2) 2年次終了時において、「卒業に必要な単位数」を90単位以上修得していること。
- (3) 2年次終了時において、以下の単位を修得していること。
- ① 普遍教育科目のうち、教養展開科目を除く卒業要件科目の単位すべて。
 - ② 専門基礎科目のうち、必修科目のすべて。
 - ③ 専門科目の必修科目のうち、2年次までの履修推奨科目のすべて。
- (4) 2年次終了時において、GPAが3.00以上であること。
- (5) 3年次、もしくは4年次前期中に早期卒業希望者に対して実施される総合学力評価試験によって、学力が優秀であると物質科学コースで認定されること。ただしこの試験は、大学院進学希望者にあつては、当該大学院の入学試験をもって代用することがで

きる。

- (6) 早期卒業認定時に物質科学コースの卒業要件を満たすこと。
- (7) 早期卒業認定時までの通算のGPAが3.00以上であること。

2年次終了時に上記の条件(1)～(4)を満たした早期卒業希望者は、コース長にその旨を申し出ること。申し出た者は、上記「3. 卒業研究の履修条件」および「6. 研究室配属について」の条項にかかわらず、4年次履修推薦科目の履修、および研究室への配属を認める。その他詳細についてはガイダンス等で説明を行う。

10. 先端科学探究プログラムについて

原則として理数大好き学生選抜試験で入学した学生を対象として、先端科学探究プログラムを設ける。このプログラムでは、プロジェクト研究Ⅰ～Ⅵを履修する。これら6科目の単位をすべて修得した場合、先端科学探究プログラム修了者として認定し、卒業証明書にその旨を記すものとする。なお、一般選抜で入学した学生についても、面接等の試験を課した後、このプログラムへの参加を認める場合がある。その他詳細についてはガイダンス等で説明を行う。

11. 工学国際英語について

工学国際英語Aは、eラーニングによる個人学習の授業である。受講登録や試験に関しては別途ガイダンスする。工学国際英語B、Cは、演習形式の授業で行うが、受講者数に上限がある。

工学国際英語AかBのうち、いずれかを必修とする。必修科目として選ばなかった科目も履修した場合、専門科目の選択科目として「卒業に必要な単位数」に算入できる。

12. その他

- (1) 履修する科目、単位の修得、卒業に関しては、この履修課程に記載された内容にしたがって行なわれる。熟読すると同時に、卒業まで大切に所持しておくこと。
- (2) 本冊子に示してある履修課程は、教科内容の充実にもなって一部改訂されることがあるので、年度初めのガイダンスにはこの冊子を持参して必ず出席し、指示に従うこと。
- (3) カリキュラム変更にもない履修すべき科目が開講されないなど、履修に関して不明な点については、学年担任に相談すること。

⑧ 共生応用化学コース (Department of Applied Chemistry and Biotechnology)

○ 共生応用化学コースの理念・目標

20世紀に急速に発展した科学技術は人類に多くの恩恵を与え、人類の福祉を増進させ、化学は物質面からこれを支えてきた。21世紀の化学に求められるのは、環境を保全しつつ地球資源を有効に活用し、人類の真の福祉に貢献することである。そのためには、環境に調和する化学プロセスを開発し、環境に適合した新物質を創製することが重要である。これらを推し進めるには生物から学ぶことも重要である。生体の種々の機能を抽出し、化学的に実用化し、これらを代替しあるいは超越する物質やプロセスを開発することは、人類が環境と調和し、他の生物と共生していくための重要な方向である。

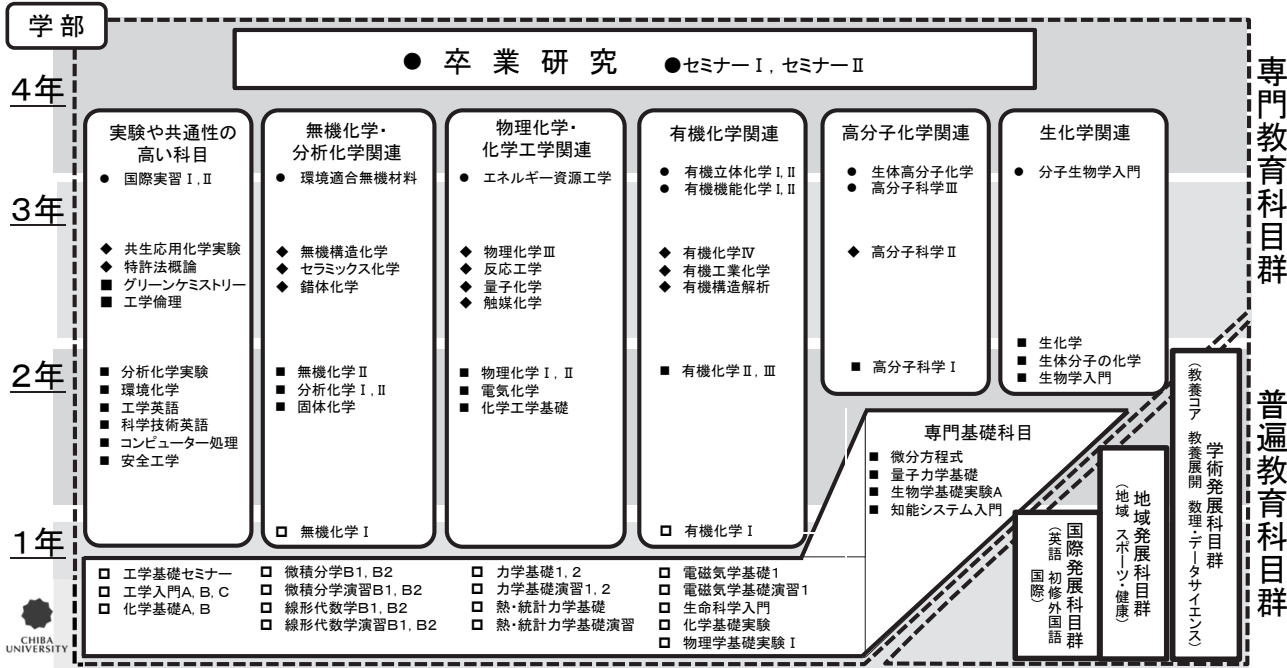
本コースではこのような観点に立って、新しい化学および新しい化学プロセスの開発を担う人材の養成を目的としている。

○ 教育課程編成の考え方・特色

- ① 入学者受け入れの方針に謳っているように、「化学を中心にした学問領域を学ぶための基礎学力と、将来、化学だけでなく他の分野との境界領域で仕事をするために化学以外の科目にも興味を持って学ぶ姿勢」のある学生を求めている。そこで、教育課程編成においては意欲をさらに増進しながら基礎となる数学・物理学・化学・生物学などの素養の涵養と、専門となる化学・材料科学を修得できるように組み立てられている。
- ② 専門授業は主に1年半の共通基礎教育の後に行い、個性と自主性を重視した、多様な授業科目の受講が可能である。また、専門科目の授業が3年次に集中することを避けるため、4年次においても授業を受けることを可能とするカリキュラム編成をとっている。3年次後期には各研究室に配属して、各自が希望する専門分野のセミナーに参加して4年次における卒業研究に備える。4年次の卒業研究においては、最先端の研究に触れることによって勉学・研究への意欲を高めることができる。高度専門職業人としての活躍を希望する者には、学部の教育課程編成と連携したカリキュラムが用意された大学院博士前期課程への進学道が開かれている。

専門基礎・専門の授業科目は以下の学習・教育目標を達成するために準備されているので、それらを考慮しながら学習することが必要である。

- A) コミュニケーション能力 (日本語・英語)
専門的事項についてコミュニケーションできる文章表現能力、プレゼンテーション能力を育成する。
- B) 普遍的な基礎知識や専門知識
普遍性のある数学、物理学、化学、生物学の基礎学力の修得と、応用化学に関する基礎的知識を修得し、応用できる能力を育成する。
- C) 実践的スキル
物質の性質を理解した上で安全に取り扱うことができる能力を修得する。実験装置・計測機器、コンピューターなどの使用法を修得し、的確に実験データを取得することができる能力を育成する。
- D) 事象の観測と考察能力・問題解決能力
現象を観測し、データを的確に評価・考察する能力や、思考力・洞察力を育成する。理論的・論理的思考に基づいて計画的・現実的な問題解決法を立案できる能力を育成する。専門分野の課題に果敢にチャレンジする意欲を涵養する。
- E) 技術と社会の関わり方の理解
技術と社会、自然との相互関係を理解し、技術者の責任を自覚する能力を養う。



科目区分	授業科目	ナンバリング	単位数	必修選択別	週当たりの授業時間数																備考		
					1年次				2年次				3年次				4年次						
					T1	T2	T4	T5	T7	T8	T10	T11	T13	T14	T16	T17	T19	T20	T22	T23			
専門基礎科目 (工学部共通)	工学基礎セミナー	TX120	2	◎	2	2																	
	工学入門A (自コース)	TX108	1	◎	2																		
	工学入門B(他コース[自系])	TX109	1	◎		2																	
	工学入門C(他コース2)	TX110	1			2																	
	微積分学B 1	CM102	2	◎	2	2																	
	微積分学B 2	CM103	2	◎		2	2																
	微積分学演習 B 1	CM104	1	◎	1	1																	
	微積分学演習 B 2	CM105	1	◎		1	1																
	線形代数学B 1	CM107	2	◎	2	2																	
	線形代数学B 2	CM108	2	◎		2	2																
	線形代数学演習 B 1	CM109	1	◎	1	1																	
	線形代数学演習 B 2	CM110	1	◎		1	1																
	知能システム入門	TX203	2					2	2														
総合工学プロジェクト	TX310	2															30					通期集中	
専門基礎科目 (共生応用化学コース指定)	微分方程式	CM203	2					2	2														
	力学基礎 1	CP103	2	◎	2	2																	
	力学基礎演習 1	CP108	1		1	1																	
	力学基礎 2	CP104	2	◎		2	2																
	力学基礎演習 2	CP109	1			1	1																
	電磁気学基礎 1	CP106	2	◎		2	2																
	電磁気学基礎演習 1	CP111	1			1	1																
	熱・統計力学基礎	CP202	2	◎		2	2																
	熱・統計力学基礎演習	CP205	1	◎		1	1																
	物理学基礎実験 I	CP112	1			(2)	(2)																
	量子力学基礎	CP203	2						2	2													
	化学基礎 A	TX111	2	◎	2	2																	
	化学基礎 B	TX112	2	◎	2	2																	
	生命科学入門	CB101	2			2	2																
	地学概論 A	CE104	2		2	2																教職向け科目.定員制限あり	
	地学概論 B	CE105	2			2	2																
化学基礎実験	CC106	1	◎		(2)	(2)																	
生物学基礎実験 A	CB102	1						(2)	(2)												定員制限あり		

注1. 集中講義については、週当たりの授業時間数ではなく、総時間数を記載している。

注2. ◎は「必修科目」、○は「選択必修科目」、無印は「選択科目」をそれぞれ示す。

注3. 実験・実習の授業時間数は（ ）で示す。

科目区分	授 業 科 目	ナンバリング	単位数	必修選択別	週当たりの授業時間数																備 考								
					1年次				2年次				3年次				4年次												
					T1	T2	T4	T5	T7	T8	T10	T11	T13	T14	T16	T17	T19	T20	T22	T23									
専門科目	無機化学 I	TG131	2	◎			2	2																					
	有機化学 I	TG171	2	◎			2	2																					
	工学英語	TG202	2	◎					2	2																			
	物理化学 I	TG241	2	◎					2	2																			
	生体分子の化学	TG281	2	◎					2	2																			
	分析化学 I	TG222	2	◎					2	2																			
	分析化学実験	TG209	1	◎					(2)	(2)																			隔週交互で2クラス開講
	安全工学	TG201	2	◎					2	2																			
	無機化学 II	TG221	2	◎					2	2																			
	高分子科学 I	TG291	2	◎							2	2																	
	共生応用化学実験	TG309	6	◎									(12)	(12)	(12)	(12)													
	セミナー I	TG411	1	◎													1	1											
	卒業研究	TG409	6	◎																		(180)							配属研究室毎に実施
	セミナー II	TG412	1	◎																					1	1			
	環境化学	TG211	2	○							2	2																	8単位以上を修得することが望ましい
	科学技術英語	TG212	2	○							2	2																	
	コンピューター処理	TG213	2	○							2	2																	
	特許法概論	TG302	2										2	2					2	2									
	グリーンケミストリー	TG203	2														2	2						2	2				
	工学倫理	TX201	1														2								2				工学部共通科目
	固体化学	TG231	2	○							2	2																	8単位以上を修得することが望ましい
	分析化学 II	TG232	2	○							2	2																	
	錯体化学	TG323	2										2	2					2	2									
	無機構造化学	TG321	2										2	2					2	2									
	セラミックス化学	TG322	2										2	2					2	2									
	環境適合無機材料	TG431	2													2	2							2	2				
	化学工学基礎	TG253	2	○							2	2																	8単位以上を修得することが望ましい
	物理化学 II	TG251	2	○							2	2																	
電気化学	TG252	2	○							2	2																		
量子化学	TG343	2										2	2					2	2										
物理化学 III	TG341	2										2	2					2	2										
反応工学	TG342	2										2	2					2	2										
触媒化学	TG344	2													2	2							2	2					
エネルギー資源工学	TG451	2													2	2							2	2					

注 1. 集中講義については、週当たりの授業時間数ではなく、総時間数を記載している。

注 2. ◎は「必修科目」、○は「選択必修科目」、無印は「選択科目」をそれぞれ示す。

注 3. 実験・実習の授業時間数は（ ）で示す。

科目区分	授業科目	ナンバリング	単位数	必修 選択 別	週当たりの授業時間数																備考
					1年次				2年次				3年次				4年次				
					T1	T2	T4	T5	T7	T8	T10	T11	T13	T14	T16	T17	T19	T20	T22	T23	
専 門 科 目	有機化学Ⅱ	TG261	2	○					2	2									8単位以上を修得することが望ましい		
	有機化学Ⅲ	TG271	2	○						2	2										
	有機化学Ⅳ	TG361	2										2	2			2	2			
	有機工業化学	TG362	2										2	2			2	2			
	有機構造解析	TG363	2										2	2			2	2			
	有機立体化学Ⅰ	TG471	1											2				2			
	有機立体化学Ⅱ	TG472	1												2			2			
	有機機能化学Ⅰ	TG473	1											2				2			
	有機機能化学Ⅱ	TG474	1												2			2			
	生物学入門	TG282	2	○					2	2									8単位以上を修得することが望ましい		
	生化学	TG292	2	○						2	2										
	高分子科学Ⅱ	TG381	2										2	2			2	2			
	分子生物学入門	TG494	2											2	2			2		2	
	生体高分子化学	TG491	2											2	2			2		2	
	高分子科学Ⅲ	TG492	2												2	2				2	2
	インターンシップⅠ	TG303	1												(30)					卒業単位としてどちらか1つのみ	
	インターンシップⅡ	TG304	2												(60)						
	国際実習Ⅰ	TG401	1												(30)					卒業単位としてどちらか1つのみ 留学科目	
	国際実習Ⅱ	TG402	2												(60)						
	海外留学認定科目Ⅰ	TX321	2												30					留学科目	
海外留学認定科目Ⅱ	TX322	2												30					留学科目		
海外留学認定科目Ⅲ	TX323	2												30					留学科目		

注1. 集中講義については、週当たりの授業時間数ではなく、総時間数を記載している。

注2. ◎は「必修科目」、○は「選択必修科目」、無印は「選択科目」をそれぞれ示す。

注3. 実験・実習の授業時間数は（ ）で示す。

1. 卒業に必要な単位数

(一般学生用)

普通教育科目												専門教育科目		卒業単位数		
国際発展科目群			地域発展科目群			学術発展科目群						専門基礎科目	専門科目			
英語科目	初修外国語科目 ※1	国際科目		スポーツ・健康科目	地域科目		教養コア科目			教養展開科目					数理・データサイエンス科目	
		基礎	展開		基礎	展開	論理	生命	文化	環境	基礎	展開				
6~10	0~4	1	1	0~2	1	1	1	1	1	1	5~9	2	1	31~	68~	130 単位
8~12			2~4			12~16						104 単位				
26 単位												104 単位				

※1 初修外国語は、複数の外国語にまたがって履修してよい。

(外国人留学生用)

普通教育科目												専門教育科目		卒業単位数		
国際発展科目群			地域発展科目群			学術発展科目群						専門基礎科目	専門科目			
英語科目※1	日本語科目	初修外国語科目 ※2		国際科目	スポーツ・健康科目	地域科目		教養コア科目			教養展開科目				数理・データサイエンス科目	
		基礎	展開			基礎	展開	論理	生命	文化	環境	基礎	展開			
6~10	0~4	0~4	1	1	0~2	1	1	1	1	1	5~9	2	1	31~	68~	130 単位
8~12			2~4			12~16						104 単位				
26 単位												104 単位				

※1 英語が母国語の人は、英語以外の外国語から履修すること。

※2 初修外国語は、複数の外国語にまたがって履修してよい。

卒業に必要な単位の内訳

専門基礎科目は工学部共通と共生応用化学コースの科目区分があり必修と選択科目に分かれる。

必修選択の別	記号	科目区分	開講科目数	開講単位数	修得しなければならない単位数
必修	◎	工学部共通	11	16 単位	16 単位
		共生応用化学コース	8	14 単位	14 単位
選択	(無印)	工学部共通	3	5 単位	1~6 単位
		共生応用化学コース	10	15 単位	

専門科目は必修，選択必修および選択科目に分かれる。

必修選択の別	記号	科目区分	開 講 科目数	開 講 単 位 数	修得しなければならない単位数
必修	◎	専門科目	14	33 単位	33 単位
選択必修	○		12	24 単位	16 単位以上
選択	(無印)		30	53 単位	専門基礎科目と専門科目(必修および選択必修)の修得単位数を加えて 104 単位以上を修得しなければならない

2. 3年次の進級について（進級ゲート）

下記条件を満たしていない場合，2年次から3年次に進級できず，「共生応用化学実験」および「セミナーⅠ」の履修ができない。

「卒業に必要な単位数」のうち76単位以上
化学基礎実験と分析化学実験を修得していること。

3. 卒業研究及びセミナーⅡ履修の条件

「卒業に必要な単位数」のうち 113 単位以上
 普遍教育科目：22 単位以上
 専門基礎科目および専門科目：必修科目 52 単位以上
 その他：卒業に必要な普遍教育科目（26 単位），専門基礎必修科目（30 単位）
 および専門必修科目（26 単位）のうち，未修得単位数が 4 単位を超えないこと。

4. 履修上の注意

(1) 普遍教育科目および専門基礎科目履修に関する注意事項	
(ア) 別途案内（掲示等）によりクラス分け指定がある科目は，これに従い履修登録すること。	
(イ) 教養コア科目および専門基礎科目は指定科目を指定クラスで受講すること。それ以外で受講しても，その単位は「卒業に必要な単位数」には算入されない。	
(2) 他学部開講の専門基礎科目	履修はできるが「卒業に必要な単位数」には算入されない。
(3) 他コースの卒業要件科目である専門基礎科目	
(4) 他学部開講の専門科目	
(5) 他コース開講の専門科目	専門科目の選択科目として履修できるが，「卒業に必要な単位数」として算入できるのは4単位までとする。履修可能な科目は，年度始めのガイダンスで指示する。
(6) 千葉工業大学の指定科目	
(7) 卒業要件科目は推奨されている年次になるべく履修すること。	
(8) 海外で修得した外国語の単位を4単位まで卒業に必要な単位として認める。	

5. 卒業に必要な単位数に算入されない教養展開科目について

以下の教養展開科目は、内容が専門教育科目と重複するため「卒業に必要な単位」として認めない。なお、普遍教育科目の変更などによって追加される科目が生じることもあるので注意すること。追加・修正等については年度始めのガイダンスで指示する。

「物理学の世界」、 「物理学入門（展開）」、 「物理学入門1, 2（展開）」
「化学（展開）」、 「物理化学A（展開）」、 「物理化学B（展開）」、
「化学基礎実験（後2）（展開）」、 「生物学基礎実験A, E, F, G（展開）」

6. 研究室配属について

3年次後期（第16ターム）より、いずれかひとつの研究室に配属される。セミナーⅠ、Ⅱおよび卒業研究は、原則として配属された研究室で開講されるものを履修する。

7. その他

- (1) 履修する科目、単位の修得、卒業に関しては、この履修課程に記載された内容にしたがって行われる。熟読すると同時に、卒業まで大切に所持しておくこと。
- (2) 本冊子に示した履修課程は、教科内容の充実に伴い一部改定されることがあるので、年度始めのガイダンスにはこの冊子を必ず持参し出席すること。
- (3) 参考のため、科目間のつながりが良くわかる共生応用化学コース開講科目のカリキュラム体系図を載せる。

共生応用化学コース 開講科目の体系図

開講期	実験に関する科目	セミナー形式	基礎となる共通性の高い科目	無機化学・分析化学関連	物理化学・化学工学関連	有機化学関連	高分子化学関連	生化学関連	その他
4年	後期	セミナーⅡ							
	前期	卒業研究							
3年	後期	セミナーⅠ	グリーンケミストリー	環境適合無機材料	触媒化学	有機立体化学Ⅱ	高分子科学Ⅲ	分子生物学入門	インターンシップⅠ(Ⅱ)*
	前期	共生応用化学実験	工学倫理	セラミックス化学	反応工学	有機工業化学	高分子科学Ⅱ		総合工学プロジェクト*
2年	後期		特許法概論	無機構造化学	物理化学Ⅲ	有機化学Ⅳ	高分子科学Ⅰ		国際実習Ⅰ(Ⅱ)*
	前期		科学技術英語	固体化学	分析化学Ⅱ	有機化学Ⅲ		生化学	
1年	後期	分析化学実験	工学英語*	無機化学Ⅱ	分析化学Ⅰ	有機化学Ⅱ		生体分子の化学	
	前期	化学基礎実験	安全工学	無機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ		生物学入門	
			工学入門A	化学基礎A		化学基礎B			

化学を除く 専門基礎科目	数学				物理学				地学				
	講義	微積分学 B1	微積分学 B2	線形代数学 B1	線形代数学 B2	微分方程式	力学基礎1	電磁気学基礎1	熱・統計力学基礎	量子力学基礎	生命科学入門	地学概論A	地学概論B
演習	微積分学演習B1	微積分学演習B2	線形代数学演習B1	線形代数学演習B2		力学基礎演習1	電磁気学基礎演習1	熱・統計力学基礎演習1					
実験						物理学基礎実験Ⅰ				生物学基礎実験A			

必修 選択必修 選択 3年次の前期後期で開講されている講義形式の科目は4年次の前期後期でも履修可
* 集中

24. 教育職員免許状の取得について

教育職員免許状の取得について【工学部 令和6年度入学】

教育職員免許法等に規定された教育職員となるための免許状を取得するためには、指定された普遍教育科目、教科及び教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目等を履修し、所定の単位を修得することが必要です。本学部で取得することができる免許状の種類及び単位の修得方法等については下記のとおりです。

なお、3年次編入学生の場合は、認定単位に係る扱いがありますので、事前に工学系学部学務室までお問い合わせ願います。

※詳細については、毎年度4月に実施する工学部教職ガイダンスで説明しますので、免許状取得希望者は必ず出席して下さい。（日時・場所は学生ポータル掲示板等にてお知らせします。）

(1) 取得できる免許状の種類・教科

学科	免許状の種類・教科	
	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
総合工学科	理科	理科

(2) 教育職員免許状取得の要件

教育職員免許状を取得するためには下記の要件を満たさなければならない。

区分		中学校教諭一種免許状 (以降, 中学一種)	高等学校教諭一種免許状 (以降, 高校一種)
基礎資格		学士の学位を有すること	学士の学位を有すること
ア. 普遍教育科目		指定された科目 8 単位	指定された科目 8 単位
専門基礎科目 及び専門科目	イ. 教科及び教科の指導法に関する科目	2 8 単位	2 4 単位
	ウ. 教育の基礎的理解に関する科目	1 0 単位	1 0 単位
	エ. 道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目	1 0 単位	8 単位
	オ. 教育実践に関する科目	7 単位	5 単位
	カ. 大学が独自に設定する科目	4 単位	1 2 単位
	小計	5 9 単位	5 9 単位
合計		6 7 単位	6 7 単位
キ. 介護等体験		必要	不要

※イ～オの必要単位数を超えて修得した余剰単位を、カ. 大学が独自に設定する科目に振り替えることができる。

ア. 普遍教育科目

中学校・高等学校ともに下記科目の単位を修得する必要がある。

免許法施行規則に定める 科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目	単位数
日本国憲法	2	憲法	2
体育	2	スポーツ・健康科目	2
外国語コミュニケーション	2	Interaction, Presentation, Discussion, Writing (いずれもAdvancedも可), CALL, Critical Thinking in English, English for Specific Fields, 海外研修英語, 海外研修英語文化	2
情報機器の操作	2	情報リテラシー	2
合計	8	合計	8

※各科目区分よりそれぞれ2単位以上計8単位を修得すること。

※これらの科目はすべて普遍教育科目として開講されている科目である。

イ. 教科及び教科の指導法に関する科目

免許状の教科「理科」

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目							
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		備考		開講部局※1		
			必修	選択	中学一種	高校一種			
教科及び教科の指導法に関する科目	物理学	力学基礎 1	2				全学教育		
		電磁気学基礎 1	2				全学教育		
		力学基礎演習 1		1				全学教育	
		電磁気学基礎演習 1		1				全学教育	
		熱・統計力学基礎	2					全学教育	
		量子力学基礎	2					全学教育	
		物性物理科学 I		2				物質科学	
		物性物理科学 II		2				物質科学	
		基礎半導体工学		2				物質科学	
		化学	化学基礎 A	2					工学部
			化学基礎 B	2					工学部
			無機化学 I		2				共生応用
			物理化学 I		2				共生応用
			分析化学 I		2				共生応用
			電気化学		2				共生応用
	錯体化学			2				共生応用	
	高分子科学 I			2				共生応用	
	有機化学 I			2		どちらか1科目のみ選択可	どちらか1科目のみ選択可	共生応用	
	有機化学			2				物質科学	
	光反応化学			2				物質科学	
	生物学		生物学入門	2					共生応用
		生化学		2				共生応用	
	地学	地学概論 A		2	いずれか1科目選択必修	いずれか1科目選択必修		全学教育	
		地学概論 B		2				全学教育	
		地球科学 B 1	1					全学教育	
		地球科学 B 2		1				全学教育	
	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	物質科学基礎実験 A		1.5	必修	いずれか1科目選択必修		物質科学	
		物質科学基礎実験 B		1.5	いずれか1科目選択必修			物質科学	
		分析化学実験		1				共生応用	
		生物学基礎実験 A	1			※2		全学教育	
		地学基礎実験 B		1	いずれか1科目選択必修	※2		全学教育	
		地学基礎実験 C		1				全学教育	
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	理科教育法 I	2		必修	いずれか1科目選択必修		教育学部	
理科教育法 II			2				教育学部		
理科教育法 III			2				教育学部		
理科教育法 IV			2				教育学部		

※1 開講部局は以下のとおりである。

- 全学教育：全学教育センター（普遍教育科目）
- 物質科学：工学部総合工学科物質科学コース
- 共生応用：工学部総合工学科共生応用化学コース
- 工学部：工学部総合工学科（学部共通専門基礎科目）

※2 高校一種では修得単位として算入されない。

○カ. 大学が独自に設定する科目の必要単位数と合わせて、中学一種は32単位、高校一種は36単位を修得すること。ただし、中学一種と高校一種の両方取得する場合は、32単位で充足する。）

ウ～カ. 教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目					
科目	各科目に含める必要事項	授業科目	単位数		備考	開講部局	
			必修	選択			
ウ. 教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育基礎論	1			教育学部	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	現代教職論	2			教育学部	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2			教育学部	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2			教育学部	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育の理論と方法	2			教育学部	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論	1			教育学部	
エ. 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法	2		中免のみ	教育学部	
	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法	1			教育学部	
	特別活動の指導法	特別活動	1			教育学部	
	教育の方法及び技術	教育方法・技術	1			教育学部	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	ICT活用教育の理論と方法	1			教育学部	
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導・教育相談・進路指導Ⅰ		2			教育学部
		生徒指導・教育相談・進路指導Ⅱ		2			教育学部
生徒指導・教育相談の理論と実際			1			教育学部	
オ. 教育実践に関する科目	教育実習	事前・事後指導	1		いずれか1科目 選択必修	工学部	
		中学校教育実習		4			
		高等学校教育実習		2			
	教職実践演習	教職実践演習（中・高）	2			教育学部	
カ. 大学が独自に設定する科目		道徳教育の理論と方法		2	高免のみ	教育学部	

○各教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育実践に関する科目及び大学が独自に設定する科目は、卒業要件単位数に含まれず余剰単位となる。

教科に関する専門的事項の科目のうち、自所属コース開講科目ではない科目の修得単位数を卒業要件単位数に算入できるか否かは所属コースにより異なるため、各コースの履修ページを参照すること。

○イ～オの必要単位数を超えて修得した余剰単位を、カ. 大学が独自に設定する科目に振り替えることができる。

ただし、中学一種（理科）の必要単位数を修得している者は、高学一種（理科）に必要な単位数を充足している。

（理科教育法の余剰4単位、道徳教育の理論と方法2単位、教育実習の余剰2単位の計8単位分をカ. 大学が独自に設定する科目の12単位に充当できるため。）

キ. 介護等体験

中学校教諭の普通免許状を得るためには、介護等体験が必要となる。

これは文部科学省令で定められた盲学校・聾学校若しくは特別支援学校及び社会福祉施設等で7日間介護・介助等の体験を行うことである。(異なる施設2か所以上で行う。)

工学部では原則2・3年次生を対象としている。

申し込みに関しては、例年2月頃に掲示するので注意すること。

(3) その他

1. 教育実習について

(1) 実施時期

対象年次：4年次

期 間：中学校一種 4週間(実働15日以上)

高等学校一種 2週間(実働8日以上)

(2) 教育実習の申し込みについて

詳細については、ガイダンスや掲示でお知らせします。変更される場合があるため、必ず工学系学部学務室窓口で確認すること。

4年次に教育実習を希望する学生は、工学系学部学務室窓口で配付している「教育実習申請書」および「受入れ内諾書」を受け取り、以下の手順で手続きを行う。

- ① 2年次2月～3年次4月頃に教育実習受入校(主に自身の出身校)に実習希望の旨連絡する。ただし、教育実習実施にあたって、(3)の条件を充足している必要があるため、教育実習受入校へ連絡する前に必ず確認すること。
- ② コース長・教育委員の承認を得る。(「教育実習申請書」に押印を受ける。)
- ③ 申請書を夏休み前までに工学系学部学務室に提出・確認印を受ける。
- ④ 3年次夏休み期間等に教育実習受入校に出向き、学校長等の内諾を得る。(「受入れ内諾書」に押印を受ける。)
- ⑤ 期日までに「教育実習申請書」および「受入れ内諾書」を工学系学部学務室へ提出する。

(3) 3年次終了までに下記の要件を満たす必要がある。

- ① 普遍教育科目については、卒業に必要な単位を修得し、かつ所属するコースの卒業研究の履修条件を満たしていること。
- ② 「各教科の指導法」, 「ウ.教育の基礎的理解に関する科目」及び「エ.道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目」をすべて修得していること。
- ③ 伝染性疾患を有しないこと。
- ④ その他実習に特別支障のない者。

(4) 教育実習は、協力校に対して大変な労力をかけることによって成立しているため、教育実習を途中で取りやめることは認めない。

2. 教職実践演習について

教職実践演習は、教育職員免許状を取得しようとする者が、教員免許状取得に必要な科目の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認する科目であり、4年次後期に履修する。

教職実践演習の実施前までに、教育実習をはじめとする教職実践演習以外の教職科目を修了しておくことを原則とする。

教職実践演習を受講するには「履修カルテ」の作成が必要である。工学部の学生には例年4月の教職ガイダンスにて配付する。教職ガイダンスに参加できなかった者や、途中から教職を希望した者は工学系学部学務室窓口にて履修カルテを受領すること。

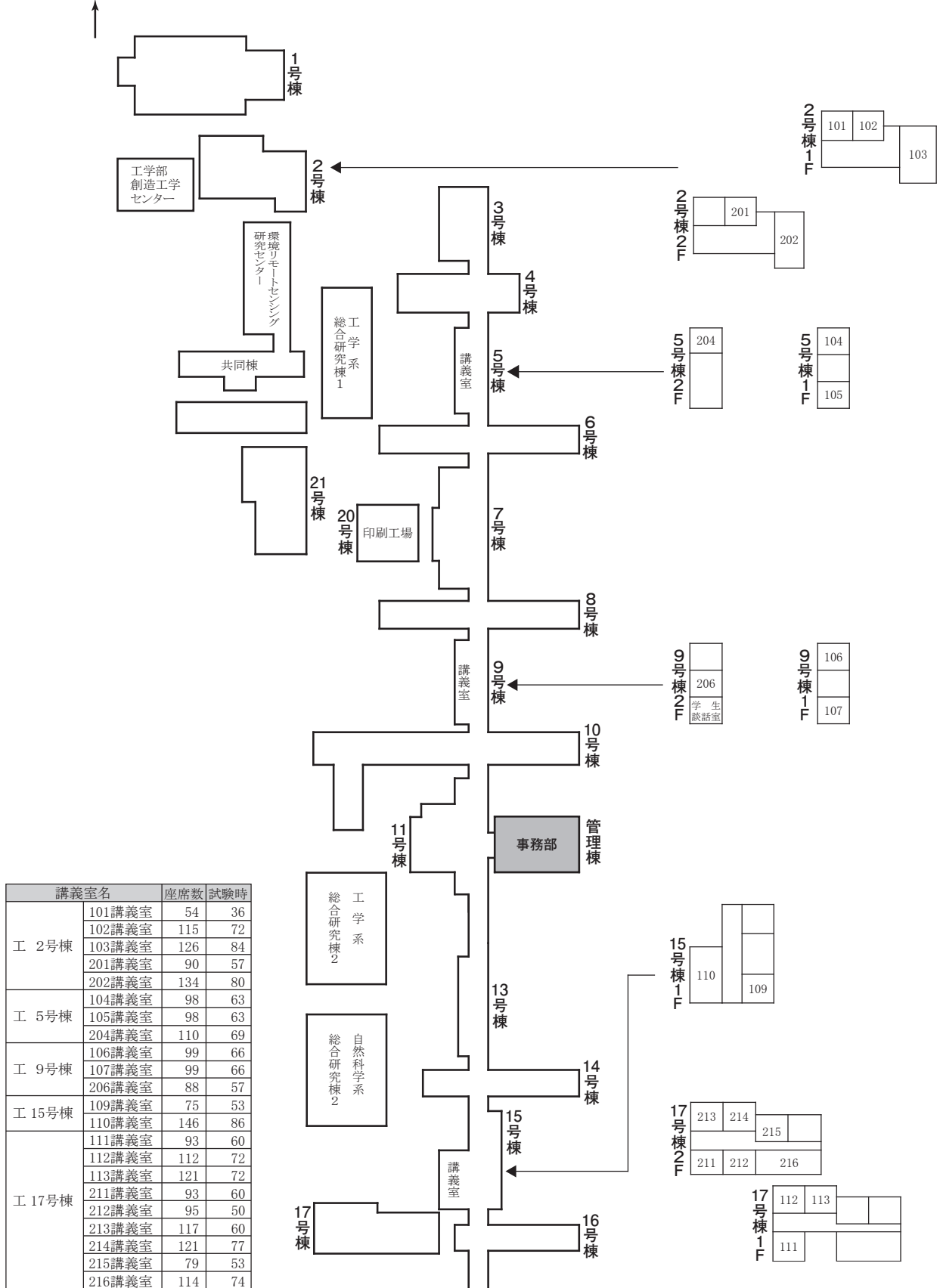
教育実習に参加した（する）4年次生に対し、4年次生の7月に工学系学部学務室より履修希望曜日・時限を照会する。

3. 教育職員免許状交付申請の一括手続きについて

その年度に卒業見込みの4年次であり、かつ、教育職員免許状取得の要件を満たす（見込みを含む）者は、大学（工学部）から千葉県教育委員会に一括して交付申請を行う。それ以外の者は、卒業後、住所地の教育委員会に個人で申請することになる。

工学部建物・講義室配置図

南門 (JR西千葉駅方面)



講義室名	座席数	試験時
工 2号棟	101講義室	54 36
	102講義室	115 72
	103講義室	126 84
	201講義室	90 57
	202講義室	134 80
工 5号棟	104講義室	98 63
	105講義室	98 63
	204講義室	110 69
工 9号棟	106講義室	99 66
	107講義室	99 66
	206講義室	88 57
工 15号棟	109講義室	75 53
	110講義室	146 86
工 17号棟	111講義室	93 60
	112講義室	112 72
	113講義室	121 72
	211講義室	93 60
	212講義室	95 50
	213講義室	117 60
	214講義室	121 77
	215講義室	79 53
	216講義室	114 74

学生証番号
氏 名